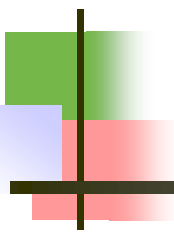


Exploring the
Limits of
Computation



確率と計算

～アルゴリズム理論の視点から

来嶋秀治

九州大学 大学院システム情報科学研究所

研究の興味 [(確率的)アルゴリズム論, 離散数学]

敬称略

確率的アルゴリズム

- 完璧サンプリング法 (MCMC法) (w/松井)
- ランダムウォークの脱乱択化 (w/牧野, 古賀, 梶野, 白髪, 山内, 山下)
- データストリーム中の頻出アイテム検知 (w/緒方, 山内, 山下)
- 置換多面体上の点の乱択丸め (w/畑埜, 瀧本, 安武, 末廣, 竹田, 永野)
- メディアン安定結婚問題 (w/根本)

グラフアルゴリズム

- 区間グラフの部分グラフ同型性判定問題はP? NP-c? (w/斎藤, 大舘, 宇野)
- 区間グラフ上の支配集合数え上げ問題はP? #P-c? (w/岡本, 宇野)
- 最大次数4の剛性サーキットは, いつでも
2つの互いに疎なハミルトン閉路に分解できるか? (w/谷川)

分散アルゴリズム

(w/ 溝口, 小野, 徐, 山内, 山下)

- ポピュレーションプロトコルのリーダー選挙問題の領域計算量

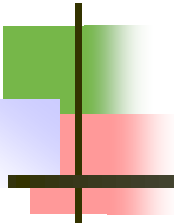
「確率と計算」本講演のねらい

「乱択アルゴリズムにおいて、乱数に真を求める性質は何か？」

1. 乱択の威力: ストリーム中の頻出アイテム検知
2. 高度な乱択技法: 組合せ的対象のランダム生成 (MCMC法)
3. 脱乱択化: ランダムウォークの脱乱択化



乱択の威力



1. ストリーム中の頻出アイテム検知

緒方 正虎, 山内 由紀子, 来嶋 秀治, 山下 雅史

九州大学

θ : "頻出度"パラメータ

ストリームデータ中の頻出アイテム検知

Σ : アイテム集合(有限)

問題: 頻出アイテム検知

Input: $\theta \in (0,1)$ $\mathbf{x} = (x_1, \dots, x_N) \in \Sigma^N$ (順々に)

Find: all $s \in \Sigma$ s.t. $f(s) \geq \theta \cdot N$ ●●●

但し $f(s)$ は s が $\mathbf{x}$ 中で出現した回数

事前には、
N (or log Nの近似値)も
わからない。

例1. 1日のPOSデータ(@果物屋)

$\Sigma = \{ \text{🍏}, \text{🍈}, \text{🍌}, \dots, \text{🍇} \}$

$\mathbf{x} = \text{🍏}, \text{🍌}, \text{🍇}, \text{🍏}, \text{🍏}, \text{🍈}, \text{🍏}, \text{🍌}, \text{🍌}, \text{🍏}, \text{🍌}, \dots$

例. 1日のアクセスIPアドレス

$\Sigma \subseteq \{0.0.0.0, \dots, 255.255.255.255\}$

$\mathbf{x} = 123.45.67.89, 111.11.1.1., 123.45.67.89, 122.122.12.12...$

would like to find items appearing w/ frequency more than $\theta=1\%$ of N.

頻出アイテム検知の領域複雑度

定理 [Karp, Shenker, Papadimitriou '03]

頻出アイテム検知を厳密に行うには,

$\Omega(|\Sigma| \log (N/|\Sigma|))$ bits が必要.

($N \gg |\Sigma| \gg 1/\theta$ とする)

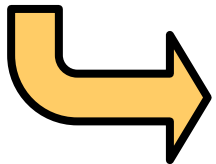
定理 [Karp, Shenker, Papadimitriou '03]

頻出アイテム検知に対する

$O((1/\theta) \log N)$ bits の偽陽性(近似)アルゴリズムが存在.

($N \gg |\Sigma| \gg 1/\theta$ とする)

決定的



$o(\log N)$ bits アルゴリズム?

➤ e.g. $O(\log \log N)$ bits?

単純化: $o(\log N)$ bits で要素数を数えられるか?

問題: 要素数え上げ

Input: $x = (a, \dots, a) \in \Sigma^N$ (順々に)

Find: N

事前には、

N (or $\log N$ の近似値) も
わからない。

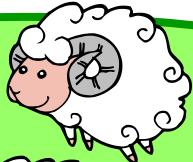
アルゴリズム: 数え上げ

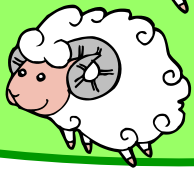
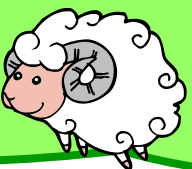
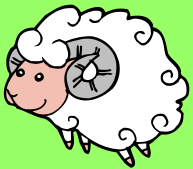
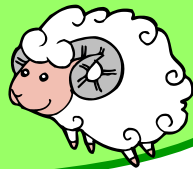
0. Set $n := 0$.

1. Read an input. If no more input, goto 3.

2. $n++$, Goto 1.

3. Output n (as $N = n$).

$\Sigma = \{$  $\}$

$x =$  ,  ,  ,  ,



単純化: $o(\log N)$ bitsで要素数を数えられるか?

問題: 要素数え上げ

Input: $\mathbf{x} = (a, \dots, a) \in \Sigma^N$ (順々に)

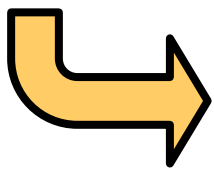
Find: N

事前には、
 N (or $\log N$ の近似値)も
わからない。

アルゴリズム: 数え上げ

0. **Set** $n := 0$.
1. **Read** an input. **If** no more input, **goto** 3.
2. $n++$, **Goto** 1.
3. **Output** n (as $N = n$).

$O(\log N)$ bits



$o(\log N)$ bits近似アルゴリズム?

➤ e.g. $O(\log \log N)$ bits?

単純化: $o(\log N)$ bits で要素数を数えられるか?

問題: 要素数え上げ

Input: $\mathbf{x} = (a, \dots, a) \in \Sigma^N$ (順々に)

Find: N

事前には、
 N (or $\log N$ の近似値) も
わからない。

Remark

- N は $O(\log N)$ bits で表現可能.
✓ $N = 1,351,127,649,213$
- N の近似は $O(\log \log N)$ bits で表現可能
✓ $N \approx 1.351 \times 10^{12}$

つまり、

指数部 ($= \log N$) が $o(\log N)$ bits 領域で近似計算できるか? ということ。

表現は $O(\log \log N)$ bits で可能

単純化: $o(\log N)$ bits で要素数を数えられるか?

問題: 要素数え上げ

Input: $\mathbf{x} = (a, \dots, a) \in \Sigma^N$ (順々に)

Find: N

事前には、
 N (or $\log N$ の近似値) も
 わからない。

アルゴリズム: 数え上げ

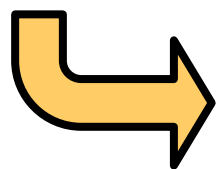
0. **Set** $n := 0$.

1. **Read** an input. **If** no more input, **goto** 3.

2. $n++$, **Goto** 1.

3. **Output** n (as $N = n$).

$\Theta(\log N)$ bits



定理. [Flajolet '85, Ogata et al. '11]

決定的アルゴリズムでは $\Omega(\log N)$ bit 必要!

確率的数え上げ

問題: 要素数え上げ

Input: $x = (a, \dots, a) \in \Sigma^N$ (順々に)

Find: N

事前には、

N (or $\log N$ の近似値) も
わからない。

アルゴリズム: 確率的数え上げ

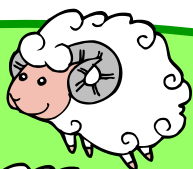
0. Set $k := 0$.

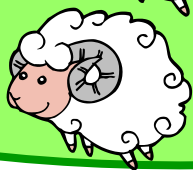
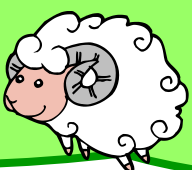
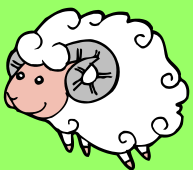
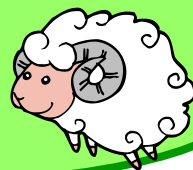
1. Read an input. If no more input, goto 3.

2. $k++$, w.p. $1/2^k$. Goto 1.

3. Output k (as $N \approx 2^k$).



$\Sigma = \{$  $\}$

$x =$  ,  ,  ,  ,

確率的数え上げ

問題: 要素数え上げ

Input: $x = (a, \dots, a) \in \Sigma^N$ (順々に)

Find: N

アルゴリズム: 確率的数え上げ

0. Set $k:=0$.

1. Read an input. If no more input, goto 3.

2. $k++$, w.p. $1/2^k$. Goto 1.

3. Output k (as $N \approx 2^k$).

$\Rightarrow$ key point

"w.p. $1/2^k$ " using
 $O(\log K)$ bits on PTM.

$O(\log \log N)$ bits

Thm. [Morris '78, Flajolet '85]

$E[2^k] \approx N+1$

because

$N \approx 1+2+4+8+16+\dots+2^k$

事前には、

N (or $\log N$ の近似値)も

わからない

確率的数え上げ(改良型; Ogata et al. 2011)

問題: 要素数え上げ

Input: $\mathbf{x} = (a, \dots, a) \in \Sigma^N$ (順々に)

Find: N

事前には、

N (or $\log N$ の近似値) も
わからない。

アルゴリズム: 確率的数え上げ(改良型)

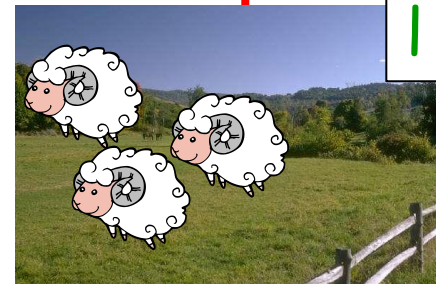
0. **Set** $k:=0, l:=0$.

1. **Read** an input. **If** no more input, **goto** 4.

2. $l++$, w.p. $1/2^k$.

3. **If** $l=2^b$, $k++$, and **set** $l := l'$ w.p. $\binom{2^b}{l'} \cdot 2^{-2^b}$. **Goto** 1.

4. **Output** l and k (as $N \approx l * 2^k$).



Thm. [Ogata, Yamauchi, K., Yamashita '11]

$E[l * 2^k] \approx N$.

確率的数え上げ(改良型; Ogata et al. 2011)

問題: 与えられた

(直感的に) " l " ($< 2^b$) は仮数部分を表す。

i.e., 各ひしを牧場 " l " に (確率 $1/2^k$ で) 捕まえておく。

アルゴリズム: 確率的数え上げ(改良型)

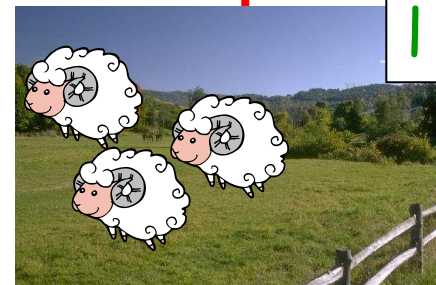
0. **Set** $k:=0$, $l:=0$.

1. **Read** an input. **If** no more input, **goto** 4.

2. $l++$, w.p. $1/2^k$.

3. **If** $l==2^b$, $k++$, and **set** $l := l'$ w.p. $\binom{2^b}{l'} \cdot 2^{-2^b}$. **Goto** 1.

4. **Output** the number of sheep in l ($l * 2^k$).



各ひしは, k 反復目の時, 確率 $1/2^k$ で (牧場 " l " に) 残っている。
 なぜなら "exponent" = j の時捕まった確率 $1/2^j$ で捕まったひしは
 "exponent" = k ($k > j$) の時, 確率 $1/2^{k-j}$ で牧場に残っている。

$$\Rightarrow \Pr[\text{ひし in } l] = 1/2^j * 1/2^{k-j} = 1/2^k.$$

確率的数え上げ(改良型; Ogata et al. 2011)

問題: 要素数え上げ

Input: $\mathbf{x} = (a, \dots, a) \in \Sigma^N$ (順々に)

Find: N

事前には、
N (or $\log N$ の近似値) も
わからない。

アルゴリズム: 確率的数え上げ(改良型)

0. **Set** $k:=0, l:=0$.

1. **Read** an input. **If** no more input, **goto** 4.

2. $l++$, w.p. $1/2^k$.

3. **If** $l=2^b$, $k++$, and **set** $l := l'$ w.p. $\binom{2^b}{l'} \cdot 2^{-2^b}$. **Goto** 1.

4. **Output** l and k (as $N \approx l * 2^k$).

$O(\log \log N)$ bits

Thm. [Ogata, Yamauchi, K., Yamashita '11]

$E[l * 2^k] \approx N$.

“改良型” を使うと、頻出アイテム検知も可能. (詳細略)

ストリームデータ中の頻出アイテム検知

問題: 頻出アイテム検知

Input: $\theta \in (0,1)$ $\mathbf{x} = (x_1, \dots, x_N) \in \Sigma^N$ (順々に)

Find: all $s \in \Sigma$ s.t. $f(s) \geq \theta \cdot N$

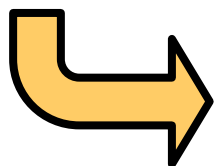
但し $f(s)$ は s が $\mathbf{x}$ 中で出現した回数

事前には、
N (or $\log N$ の近似値) も
わからない。

Thm. [Ogata, Yamauchi, K., Yamashita '11]

$O(\log \log N)$ bits 領域の乱択近似アルゴリズムが存在.

詳細略



$o(\log N)$ bits アルゴリズム?

➤ e.g. $O(\log \log N)$ bits?

“ランダム生成” $\approx$ “数える(積分)”

2. 組合せ的対象のランダム生成

マルコフ連鎖モンテカルロ法

(MCMC: Markov chain Monte Carlo)

joint with 松井知己 (中央大学)

例: 2行分割表のランダム生成

2元分割表

- ✓ 各セルには非負整数が入る
- ✓ (与えられた) 周辺和を満たす

						12
						18
5	4	3	7	5	6	30

5	4	3	0	0	0	12
0	0	0	7	5	6	18
5	4	3	7	5	6	30

状態A

4	3	1	3	1	0	12
1	1	2	4	4	6	18
5	4	3	7	5	6	30

状態B

0	0	0	1	5	6	12
5	4	3	6	0	0	18
5	4	3	7	5	6	30

状態C

問題

Given: 周辺和

出力: 分割表の一樣ランダム生成

例: 2行分割表のランダム生成

2元分割表

- ✓ 各セルには非負整数が入る
- ✓ (与えられた) 周辺和を満たす

						12
						18
5	4	3	7	5	6	30

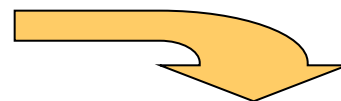
与えられた周辺和を満たす2行分割表の個数を求める問題

⇒ #P完全 (NP困難) ['97 Dyer, Kannan, & Mount]

問題

Given: 周辺和

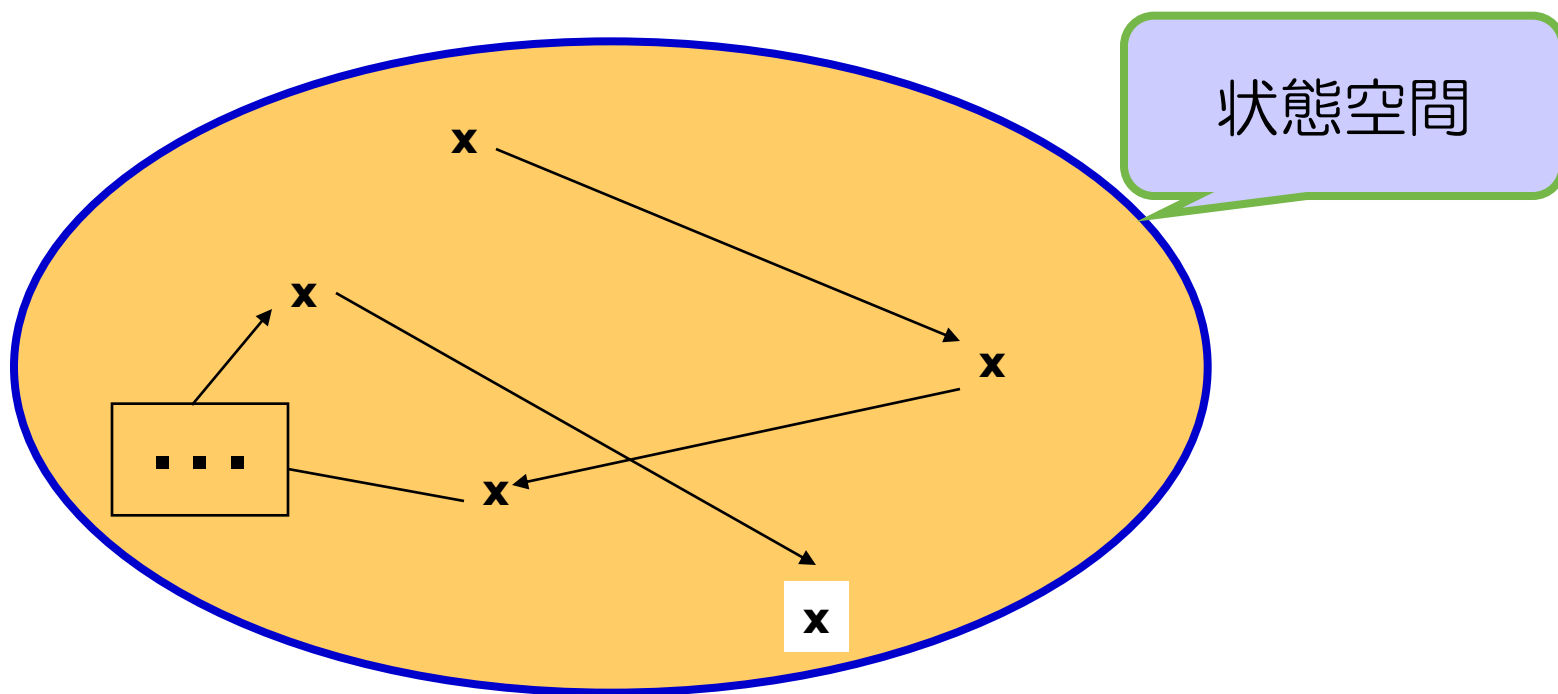
出力: 分割表の一樣ランダム生成



マルコフ連鎖を用いた
サンプリング法

MCMC法のアイデア

1. 所望の分布を定常分布にもつマルコフ連鎖を設計する.
2. 十分な回数推移させて, 定常分布からサンプリングする.



⇒ (漸近的に)所望の分布に従うサンプリングを実現

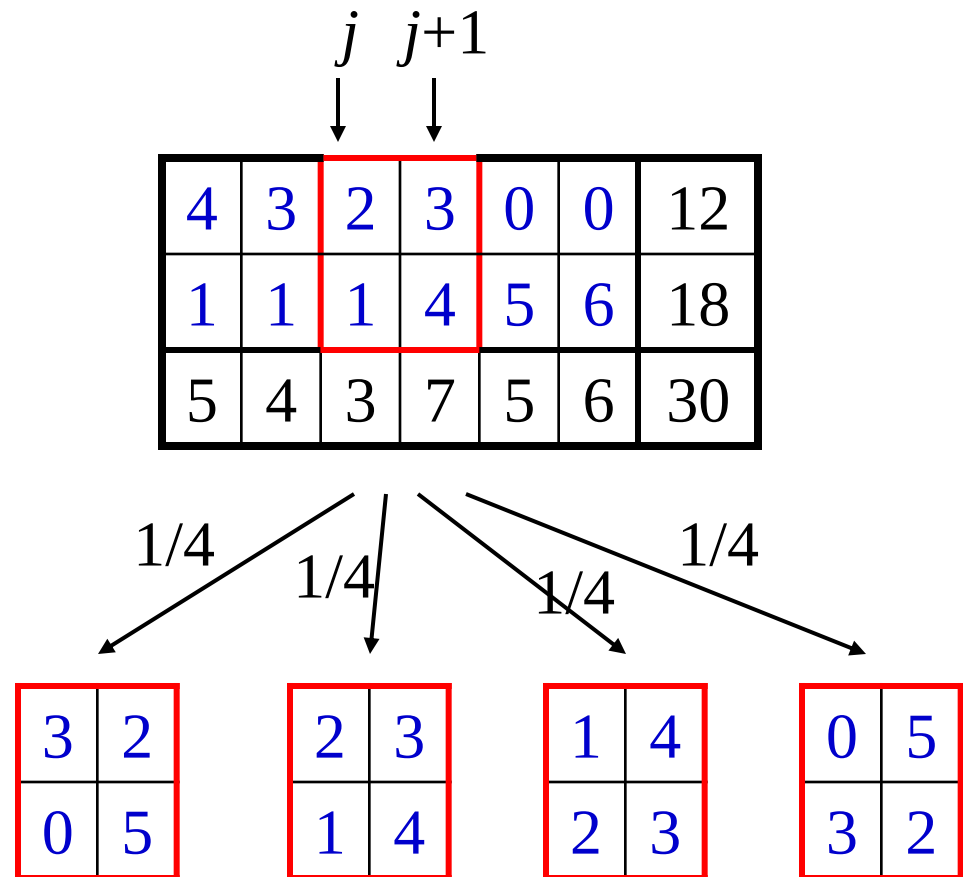
例: 2行分割表に対するマルコフ連鎖 [K & Matsui '06]

- j 列目 (と $j+1$ 列目) を $1/(n-1)$ の確率で選ぶ。
- j 列目と $j+1$ 列目に対して推移可能な状態に等確率で推移する。

2	3	5
1	4	5
3	7	10

+

$+k$	$-k$
$-k$	$+k$



提案するマルコフ連鎖の特徴

定理

提案したマルコフ連鎖の定常分布は一様分布である.

略証: $\forall (X, Y), P(X, Y) > 0 \Rightarrow P(Y, X) > 0$ かつ $P(X, Y) = P(Y, X)$

X

4	3	2	3	0	0	12
1	1	1	4	5	6	18
5	4	3	7	5	6	30

Y

4	3	0	5	0	0	12
1	1	3	2	5	6	18
5	4	3	7	5	6	30

(detailed balance equation $\pi(X) P(X, Y) = \pi(Y) P(Y, X)$)

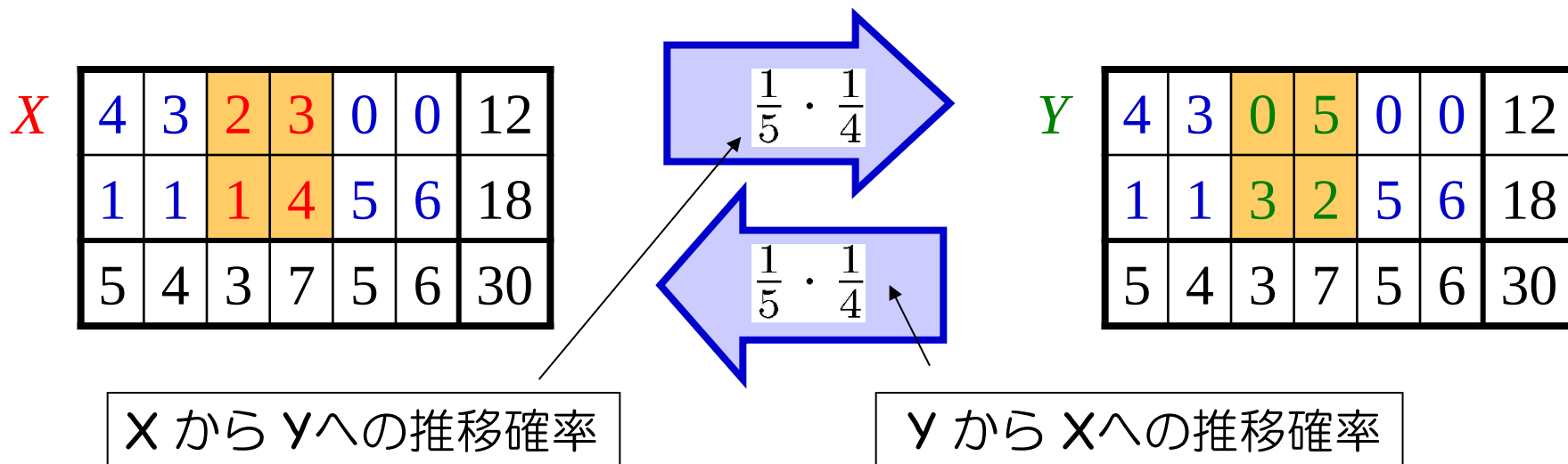
提案するマルコフ連鎖の特徴

定理

提案したマルコフ連鎖の定常分布は一様分布である.

一様分布の証明: 詳細釣り合いの式

$$1 \cdot P(x, y) = 1 \cdot P(y, x) \quad \forall x, y \in \Omega$$



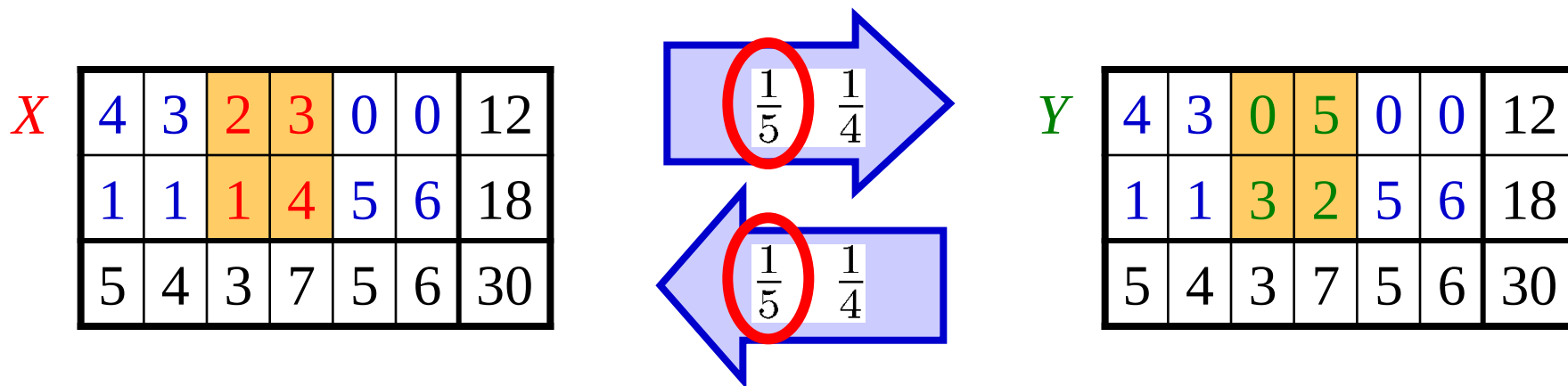
提案するマルコフ連鎖の特徴

定理

提案したマルコフ連鎖の定常分布は一様分布である.

一様分布の証明: 詳細釣り合いの式

$$1 \cdot P(x, y) = 1 \cdot P(y, x) \quad \forall x, y \in \Omega$$



隣接2列を一様乱択 (確率 $1/(6-1)$)

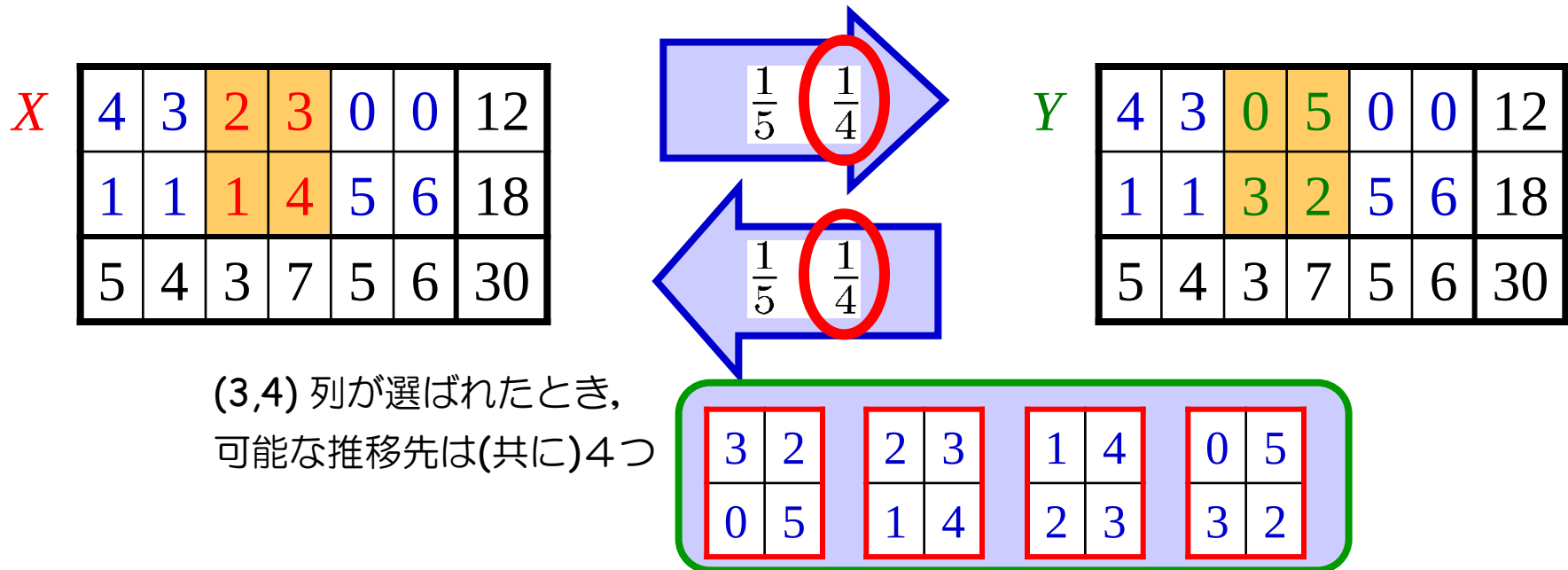
提案するマルコフ連鎖の特徴

定理

提案したマルコフ連鎖の定常分布は一様分布である.

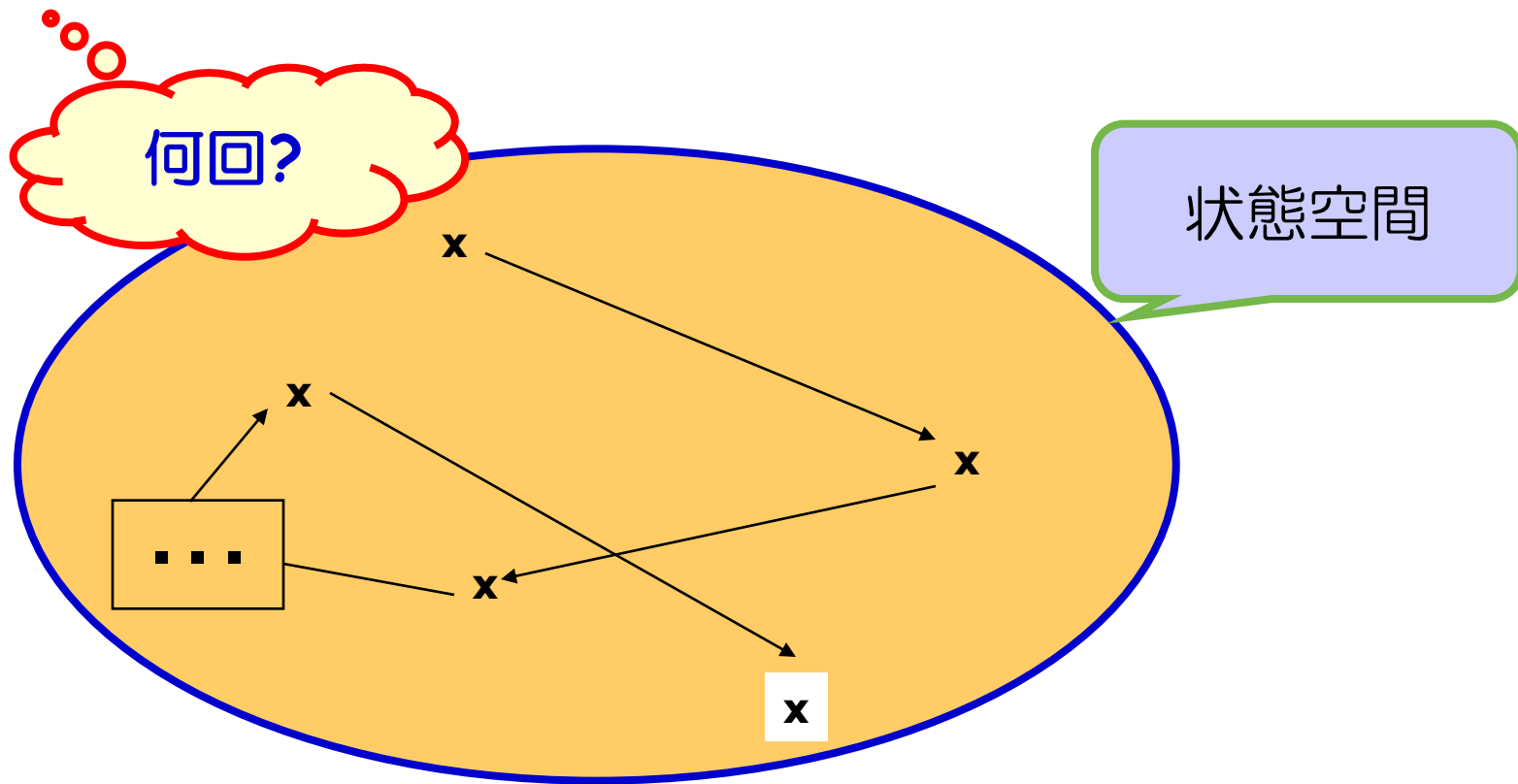
一様分布の証明: 詳細釣り合いの式

$$1 \cdot P(x, y) = 1 \cdot P(y, x) \quad \forall x, y \in \Omega$$



MCMC法のアイデア

1. 所望の分布を定常分布にもつマルコフ連鎖を設計する.
2. 十分な回数推移させて, 定常分布からサンプリングする.



⇒ (漸近的に)所望の分布に従うサンプリングを実現

問題点は何か？

「何回推移させれば十分か？」

近似サンプリング法

- ✓ 収束スピードの算定
 - **mixing time**, total variation distance

完璧サンプリング法

- ✓ マルコフ連鎖の推移シミュレーションを工夫
- ✓ 無限回の推移の結果を出力 (⇒ 定常分布に厳密に従う)
 - **Coupling from the past** [Propp & Wilson 1996]

•
•
○
単調マルコフ連鎖の設計で効率化

更新関数 (update function)

• マルコフ連鎖 MC (エルゴード的)

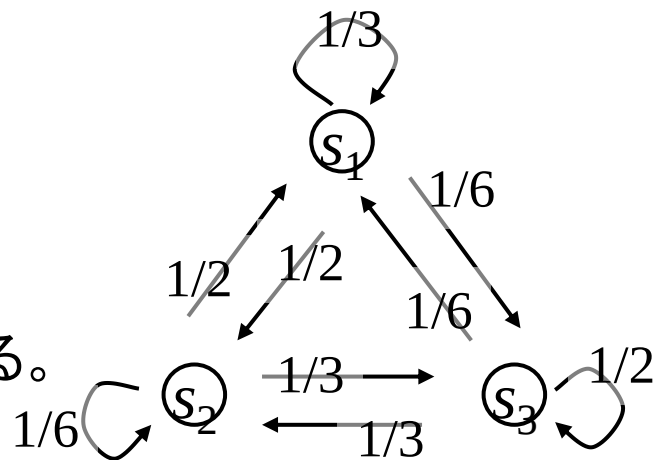
- 状態空間: s_1, s_2, s_3 ; 有限 (3 状態)
- 推移規則: 乱数 $\lambda \in \{1, \dots, 6\}$ に対して決まる。

更新関数

現在の状態

乱数

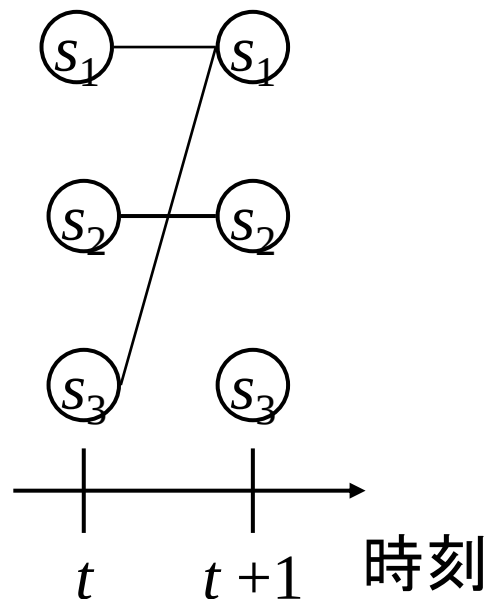
	s_1	s_2	s_3
1	s_3	s_1	s_2
2	s_2	s_3	s_2
3	s_2	s_1	s_3
4	s_1	s_1	s_3
5	s_1	s_2	s_1
6	s_2	s_3	s_3



例

5

← λ



CFTPアルゴリズムと定理 [Propp & Wilson 1996]

マルコフ連鎖 MC : { 有限離散の状態空間 Ω
更新関数 $\Phi_s^t(x, \lambda)$ ← 時刻 s , 状態 x から
エルゴード性を満たす。 時刻 t まで推移
(乱数列 λ)

CFTPアルゴリズム

1. set $T = -1$; set λ : 空列;
2. generate $\lambda[T]$: 乱数; put $\lambda := (\lambda[T], \lambda[T+1], \dots, \lambda[-1])$;
3. Ω の全ての状態について、時刻 T から 0 まで λ を用いてマルコフ連鎖 MC を推移させる。
 - a. if **coalesce** ($\exists y \in \Omega, \forall x \in \Omega, y = \Phi_T^0(x, \lambda)$) $\Rightarrow$ return y ;
 - b. otherwise, set $T := T - 1$; step 2.に戻る;

CFTP定理

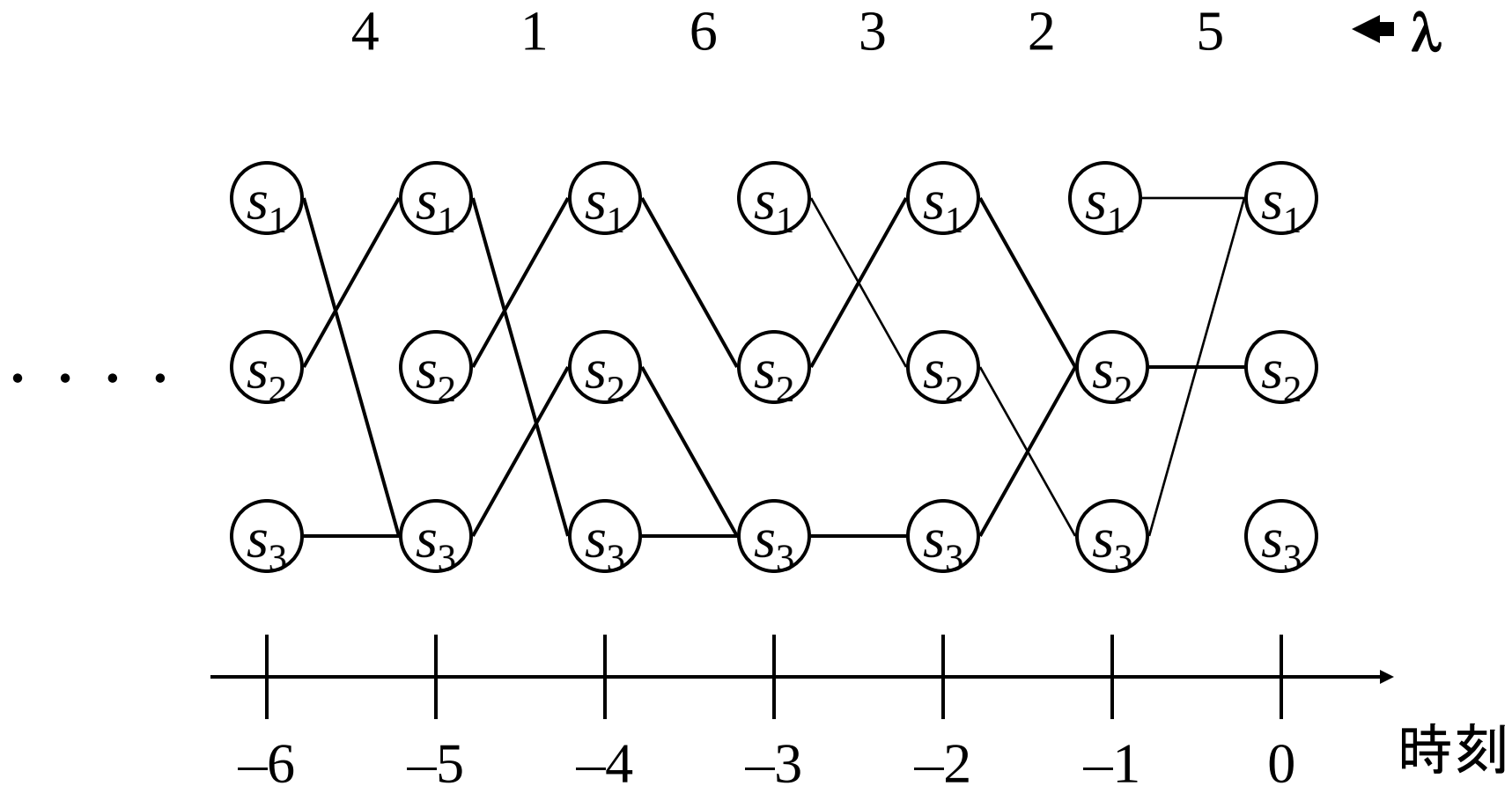
上のアルゴリズムが停止して値を返す時、
その値はマルコフ連鎖 M の定常分布に厳密に従う確率変数を実現する。

CFTPのアイデア

- ◆ 仮想的に無限の過去から推移を続けるマルコフ連鎖を考える。
 - 現在（時刻0）の状態は定常分布に厳密に従う。
- ◆ 現在（時刻0）の状態は何か？
 - 最近の乱数列から推定する。
 - ⇒ 現在の状態を一意に特定する証拠を見つける。

coalescence

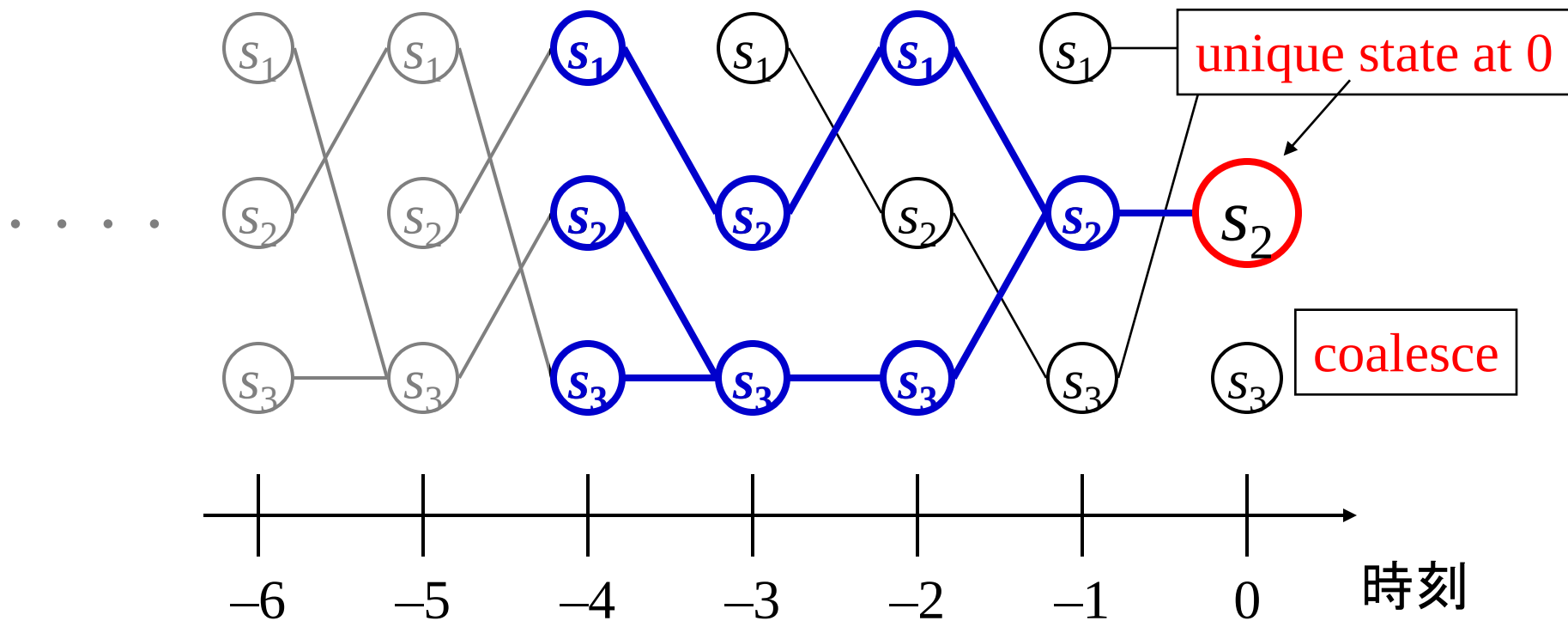
⇒ 乱数列と対応する推移に依存



CFTPのアイデア

初期状態を知る必要がない!!

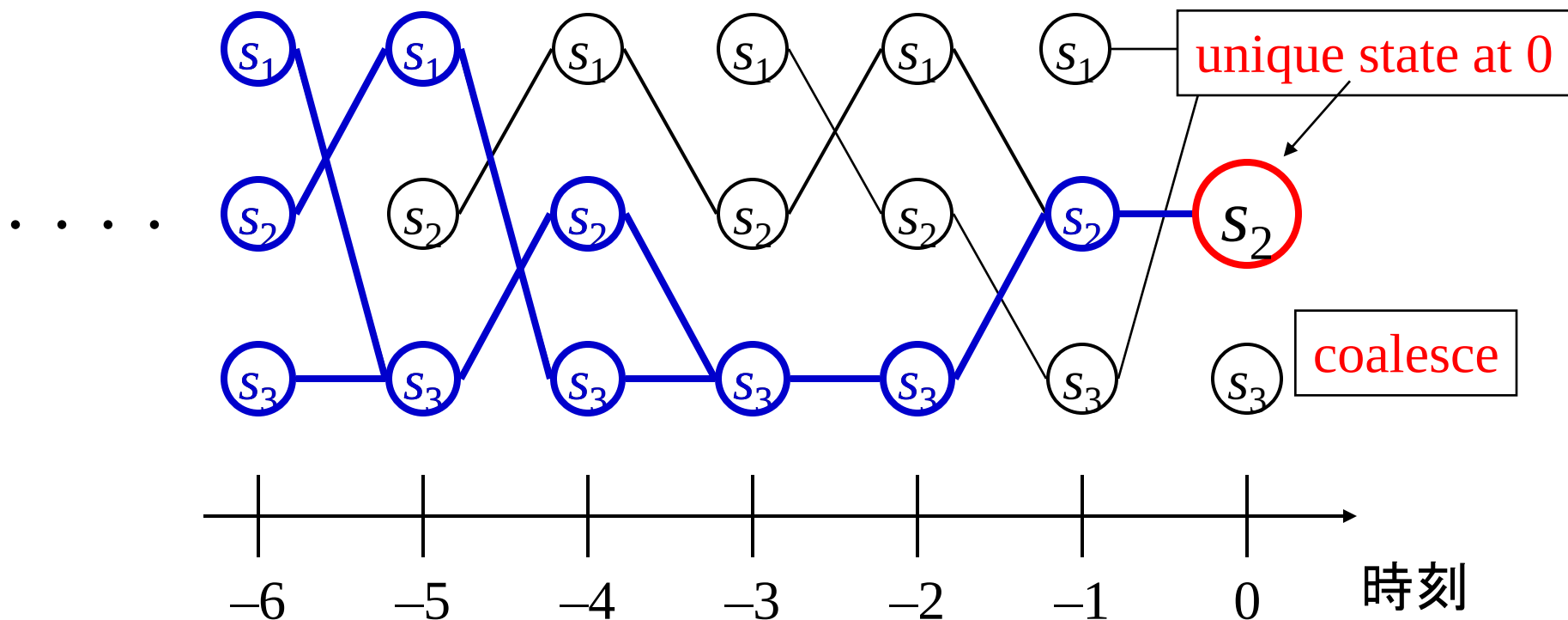
4 1 6 3 2 5 ← λ



CFTPのアイデア

シミュレーションの開始時刻は、時刻0の状態に影響を及ぼさない

4 1 6 3 2 5 ← λ



CFTPアルゴリズムと定理 [Propp & Wilson 1996]

マルコフ連鎖 MC : { 有限離散の状態空間 Ω
更新関数 $\Phi_s^t(x, \lambda)$ ← 時刻 s , 状態 x から
エルゴード性を満たす。 時刻 t まで推移
(乱数列 λ)

CFTPアルゴリズム

1. set $T = -1$; set λ : 空列;
2. generate $\lambda[T]$: 乱数; put $\lambda := (\lambda[T], \lambda[T+1], \dots, \lambda[-1])$;
3. Ω の全ての状態について、時刻 T から 0 まで λ を用いてマルコフ連鎖 MC を推移させる。
 - a. if **coalesce** ($\exists y \in \Omega, \forall x \in \Omega, y = \Phi_T^0(x, \lambda)$) $\Rightarrow$ return y ;
 - b. otherwise, set $T := T - 1$; step 2.に戻る;

CFTP定理

上のアルゴリズムが停止して値を返す時、
その値はマルコフ連鎖 M の定常分布に厳密に従う確率変数を実現する。

MCMC完璧サンプリングの設計例

単調なマルコフ連鎖

- ✓ Isingモデル
- ✓ Pottsモデル（クラッターモデル） [Propp & Wilson 96]
- ✓ tiling [Wilson 01]
- ✓ 2行分割表 [K & Matsui 06]
- ✓ 離散化Dirichlet分布 [Matsui & K 07]
- ✓ 待ち行列ネットワーク [K & Matsui 08]
- ✓ Q-Ising モデル [Yamamoto, K & Matsui 08]

それ以外のCFTP

- ✓ 根付き全張木 [Propp & Wilson 98]

乱数ベクトルの記憶容量に関する問題

- Wilson の read onceアルゴリズム [Wilson 00]
- Fillのinterruptibleアルゴリズム [Fill 98]

参考文献

- 来嶋秀治, 松井知己, “完璧にサンプリングしよう!”
オペレーションズ・リサーチ, 50 (2005),
第一話「遥かなる過去から」, 169--174 (no. 3),
第二話「天と地の狭間で」, 264--269 (no. 4),
第三話「終りある未来」, 329--334 (no. 5).
- 玉木久夫, 乱択アルゴリズム, 共立出版, 2008, 3000円

✓ 「ORアーカイブ」でダウンロード可能

http://www.orsj.or.jp/~archive/menu/03_50.html

✓ 来嶋のHP

<http://www.kurims.kyoto-u.ac.jp/~kijima/>

➤ “資料”からダウンロード可能

➤ 2行分割表の完璧サンプリング法のデモ (JAVAアプレット)

サンプリングアルゴリズム --最近の動向と今後の課題

解決済み (多項式性)

- ✓ 高次元凸体上の一様分布/対数凹分布

[Dyer, Frieze, & Kannan 91], [Lovasz & Vempala 07]

- ✓ パーマネント/2部グラフの完全マッチング

[Jerrum, Sinclair, & Vigoda 04], [Stefankovic, Vempala, & Vigoda 09]

- ✓ Ising モデル/白黒画像 [Jerrum & Sinclair 93], [Propp & Wilson 96]

未解決問題 (多項式性):

- ✓ 2元分割表 (u.a.r.)
- ✓ 順序イデアル (u.a.r.)
- ✓ Tutte多項式
 - マトロイド基 (u.a.r.)
 - Pottsモデル

不可能性

一般の対数劣モジューラ分布に対して, [K 09+]

(RP $\neq$ NPの下) 多項式時間サンプリング法は存在しない。

脱乱択化 (derandomization)



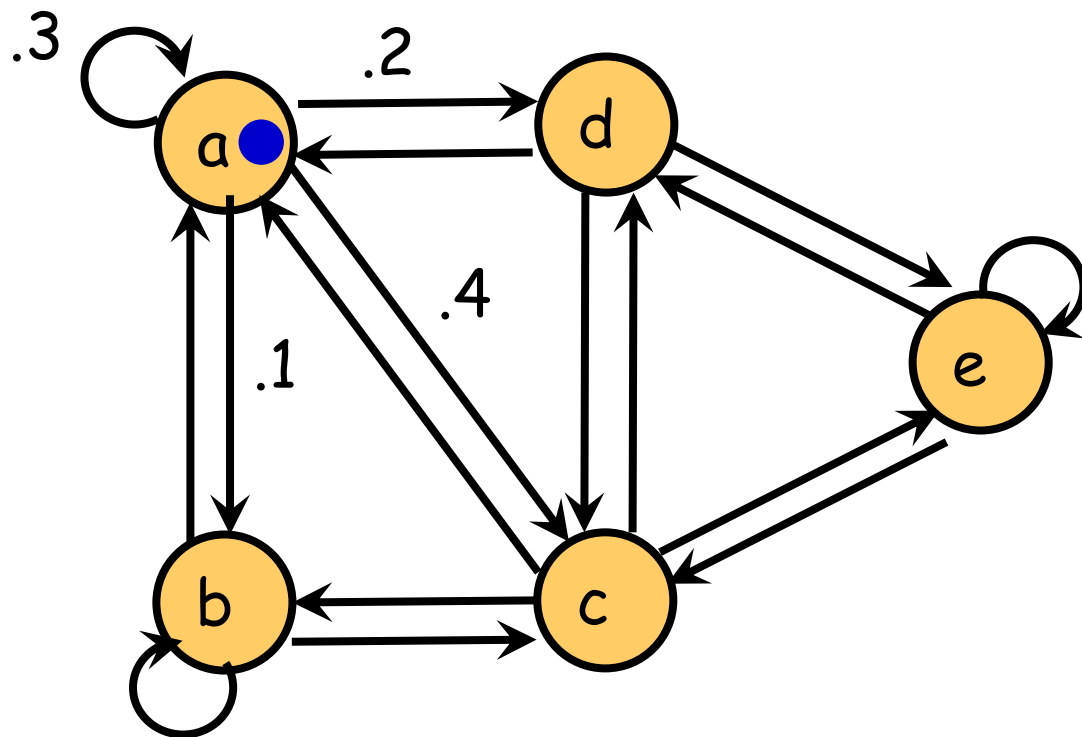
3. ランダムウォークの脱乱択化

- ✓ 来嶋, 古賀 健太郎 (FANUC), 牧野 和久 (東大)
- ✓ 梶野 洸 (東大), 来嶋, 牧野 和久 (東大)
- ✓ 白髪 丈晴, 山内 由紀子, 来嶋, 山下 雅史 (九大)

ランダムウォーク

トークンがグラフ上をランダムウォークする.

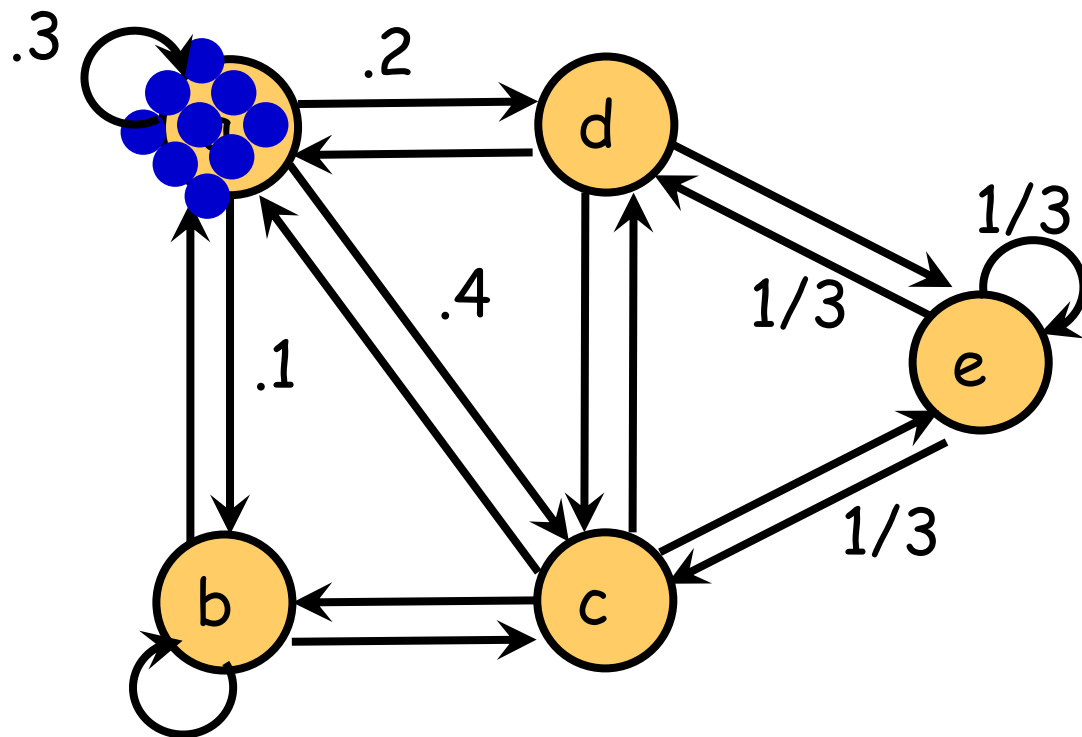
- ✓ π^0 : 初期分布 (トークンは確率 π^0_v で頂点 v に居る)
- ✓ P : 推移確率行列 (確率 P_{uv} で頂点 u 頂点 v に移動)
- ✓ 時刻 t の確率分布 $\pi^t := \pi^0 P^t$ (頂点 v に居る確率 $(\pi^t)_v$)



ランダムウォーク (複数トークンによる分布の近似)

N 個のトークンがグラフ上を独立にランダムウォークする.

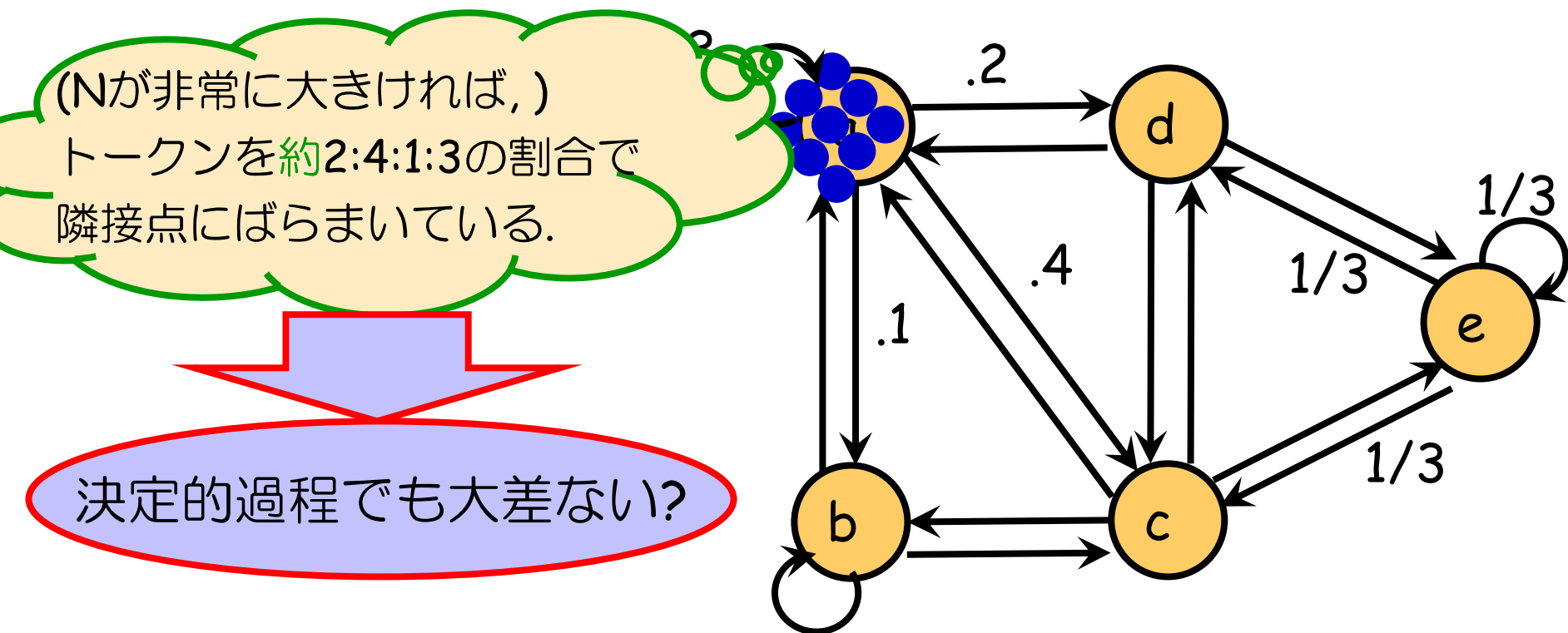
- ✓ μ^0 : 初期配置 ($\pi^0 \approx \mu^0/N$)
- ✓ P : 推移確率行列 (確率 P_{uv} で頂点 u 頂点 v に移動)
- ✓ 時刻 t の期待配置 $\mu^t := \mu^0 P^t$ ($\pi^t \approx \mu^t/N$)



ランダムウォーク (複数トークンによる分布の近似)

N 個のトークンがグラフ上を独立にランダムウォークする。

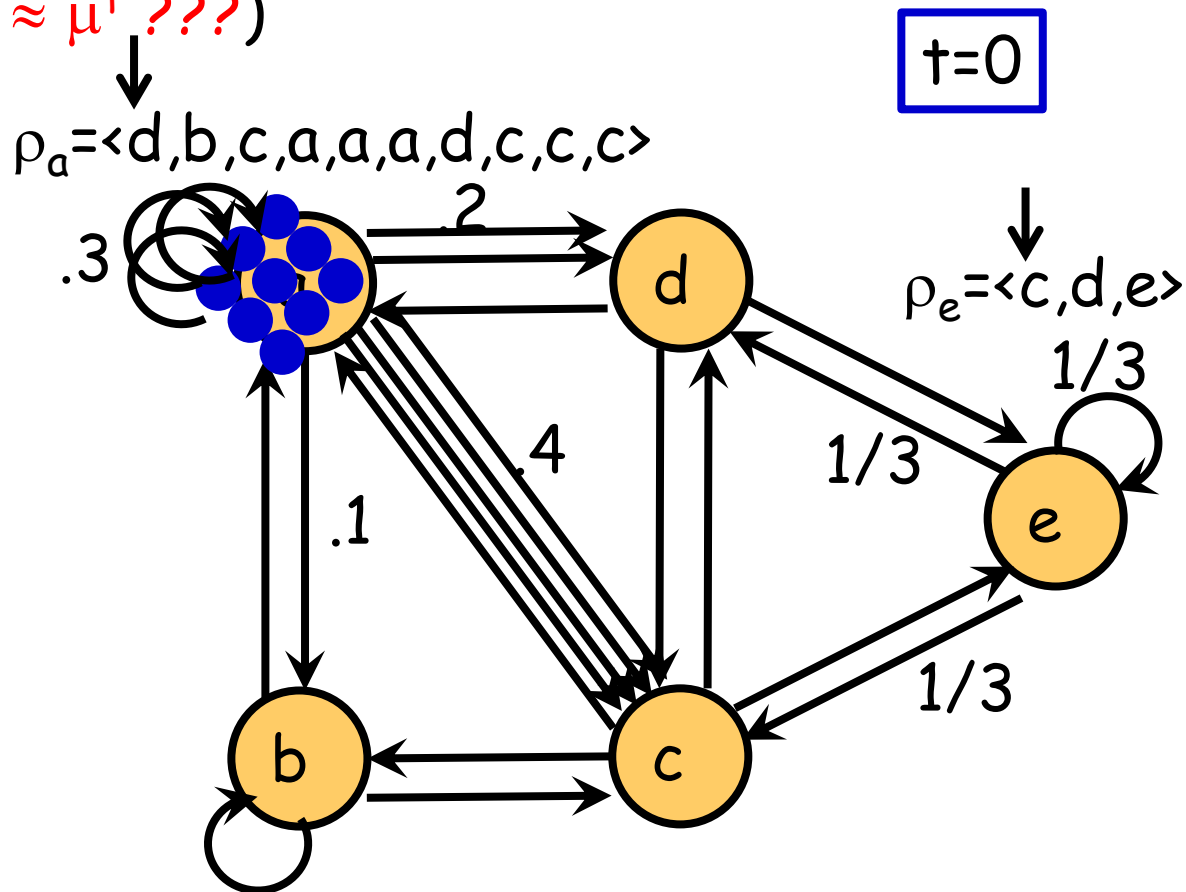
- ✓ μ^0 : 初期配置 ($\pi^0 \approx \mu^0/N$)
- ✓ P : 推移確率行列 (確率 P_{uv} で頂点 u 頂点 v に移動)
- ✓ 時刻 t の期待配置 $\mu^t := \mu^0 P^t$ ($\pi^t \approx \mu^t/N$)



deterministic RW (Propp機械; rotor-router)

N 個のトークンがグラフ上を移動する.

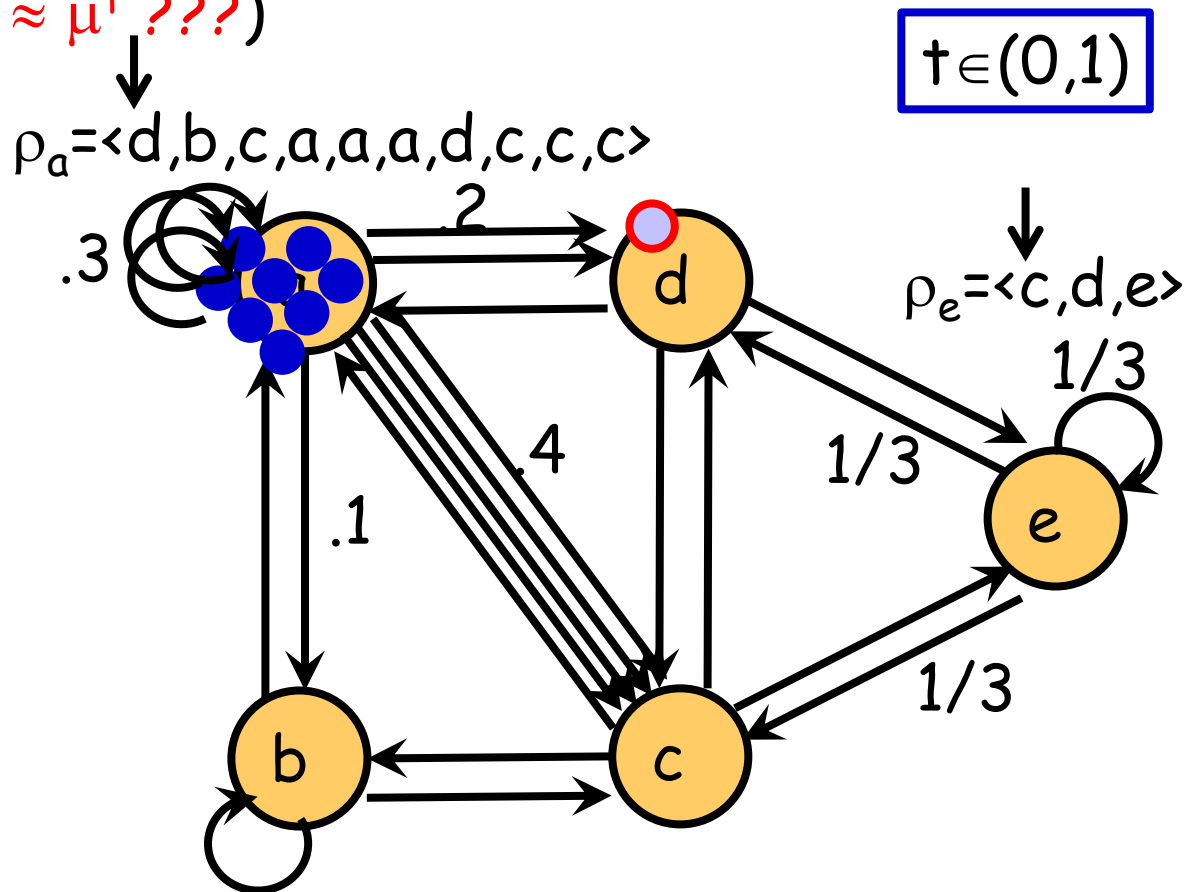
- ✓ χ^0 : 初期配置 ($\chi^0 = \mu^0$)
- ✓ ρ : "rotor router" (比率 P_{uv} で頂点 u 頂点 v に"順次"移動)
- ✓ 時刻 t の配置 χ^t ($\chi^t \approx \mu^t$???)



deterministic RW (Propp機械; rotor-router)

N 個のトークンがグラフ上を移動する.

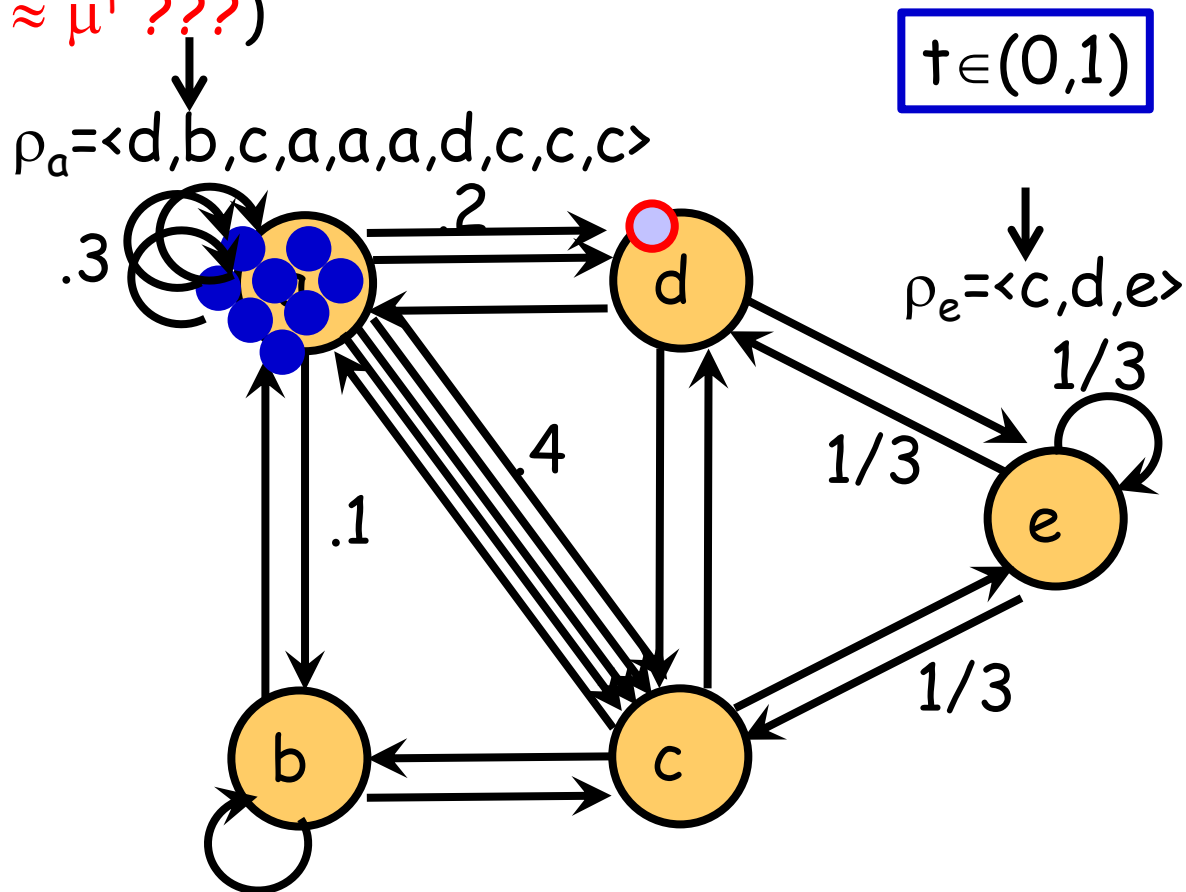
- ✓ χ^0 : 初期配置 ($\chi^0 = \mu^0$)
- ✓ ρ : "rotor router" (比率 P_{uv} で頂点 u 頂点 v に"順次"移動)
- ✓ 時刻 t の配置 χ^t ($\chi^t \approx \mu^t$???)



deterministic RW (Propp機械; rotor-router)

N個のトークンがグラフ上を移動する.

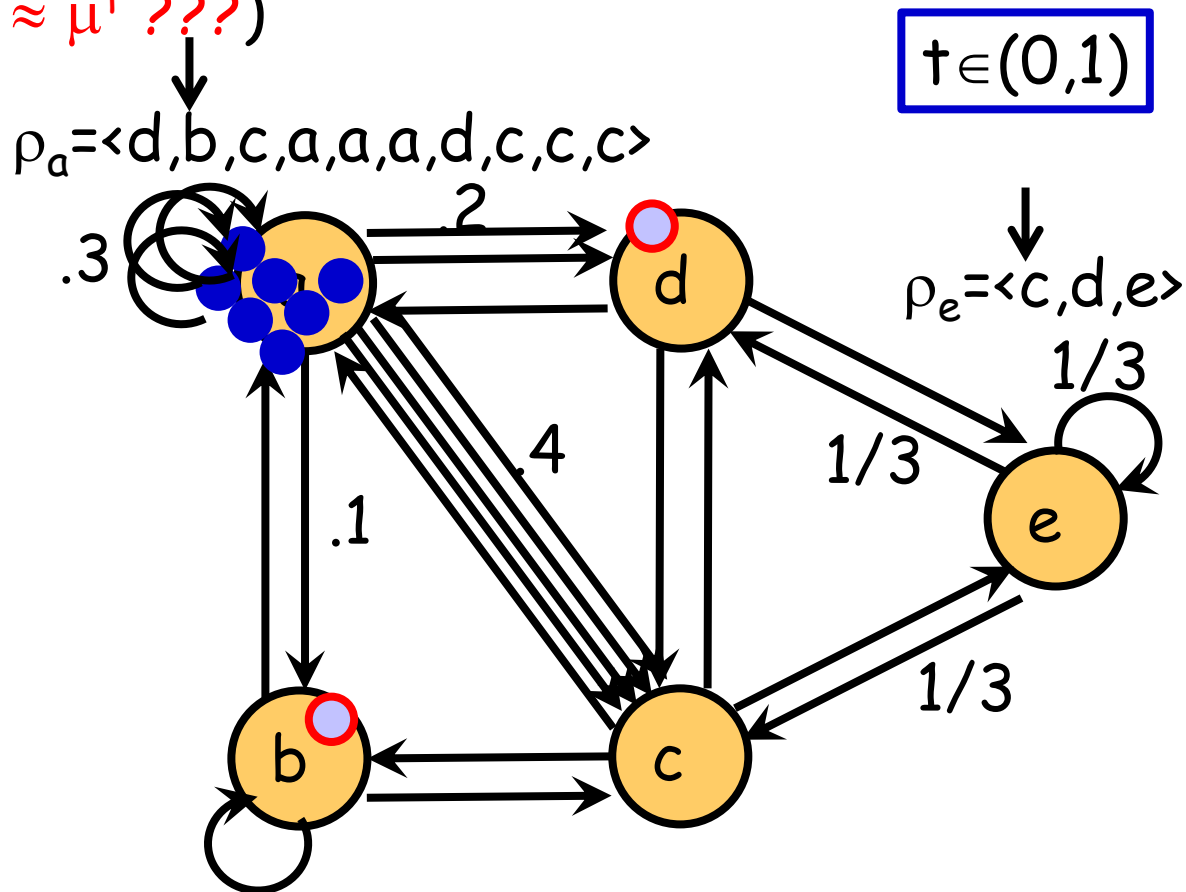
- ✓ χ^0 : 初期配置 ($\chi^0 = \mu^0$)
- ✓ ρ : "rotor router" (比率 P_{uv} で頂点 u 頂点 v に"順次"移動)
- ✓ 時刻 t の配置 χ^t ($\chi^t \approx \mu^t$???)



deterministic RW (Propp機械; rotor-router)

N 個のトークンがグラフ上を移動する.

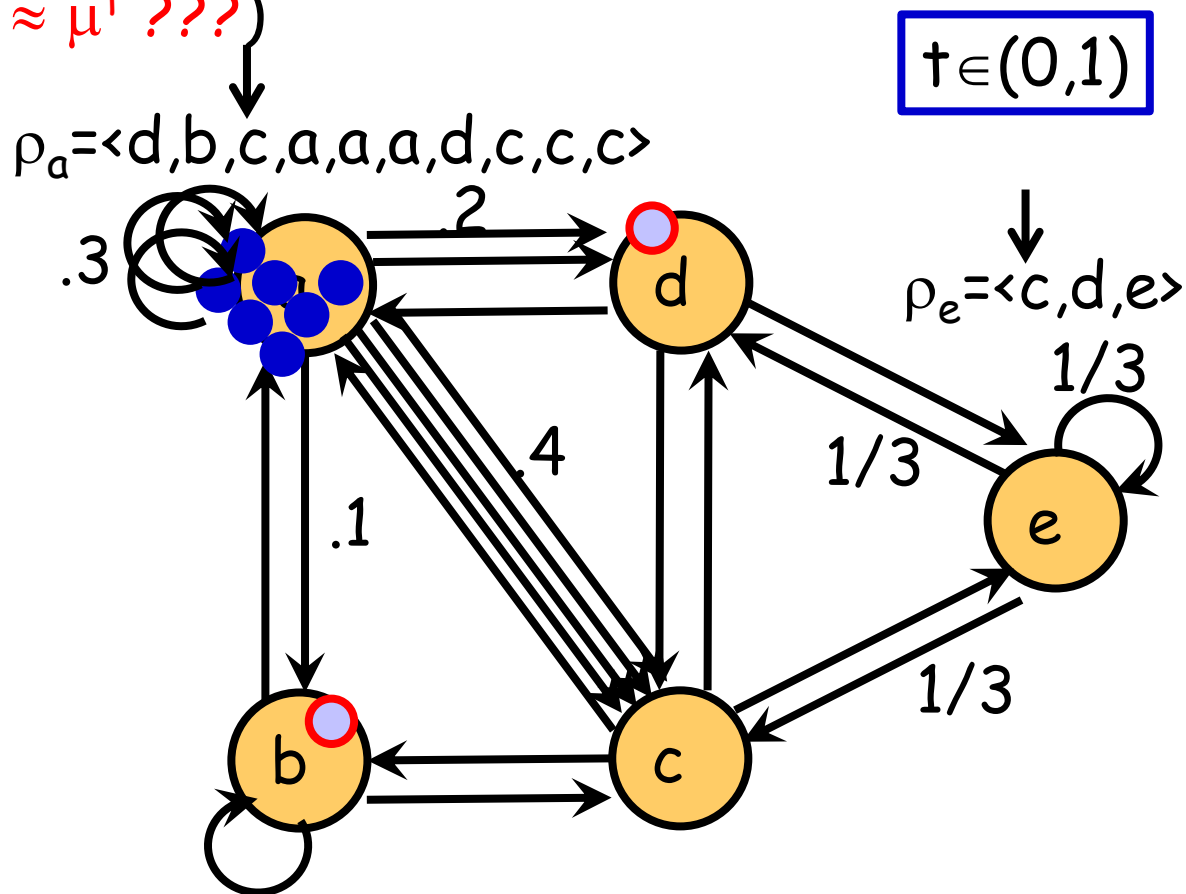
- ✓ χ^0 : 初期配置 ($\chi^0 = \mu^0$)
- ✓ ρ : "rotor router" (比率 P_{uv} で頂点 u 頂点 v に"順次"移動)
- ✓ 時刻 t の配置 χ^t ($\chi^t \approx \mu^t$???)



deterministic RW (Propp機械; rotor-router)

N 個のトークンがグラフ上を移動する.

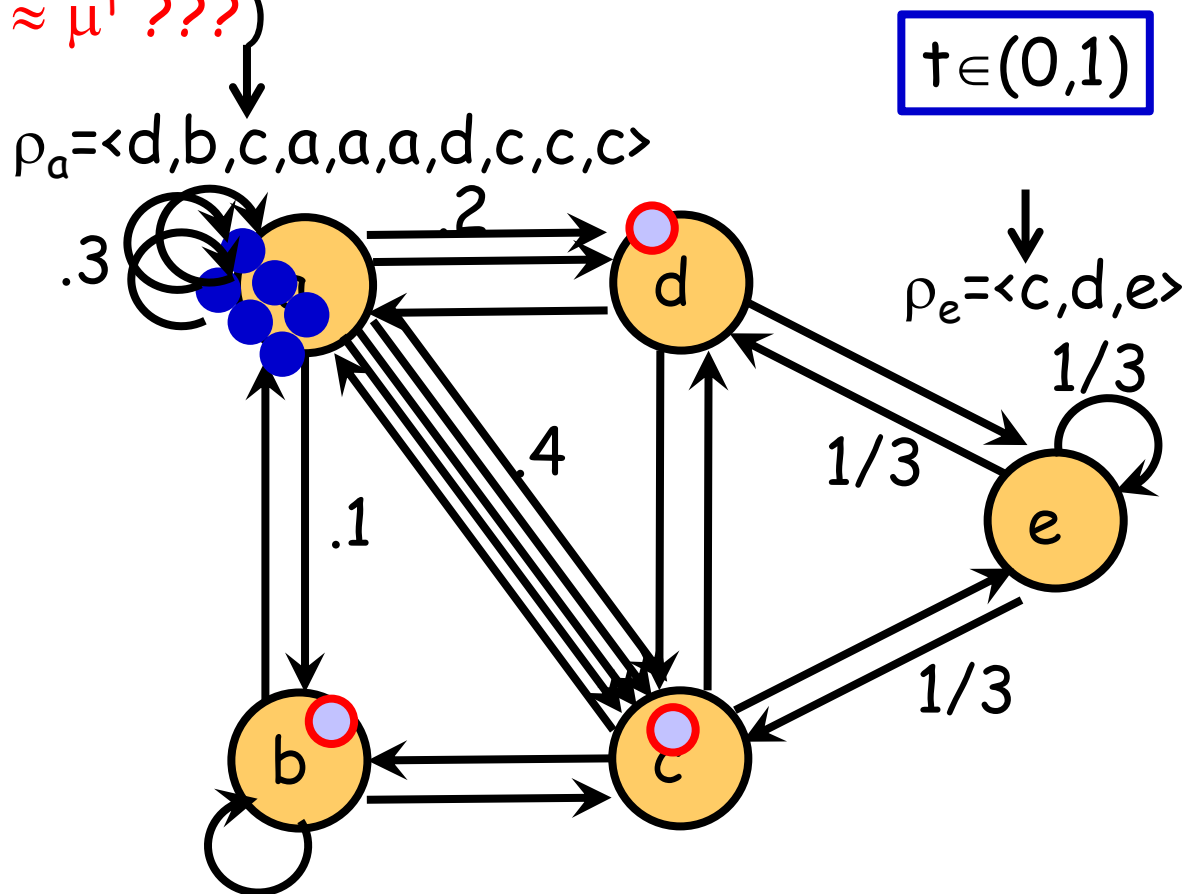
- ✓ χ^0 : 初期配置 ($\chi^0 = \mu^0$)
- ✓ ρ : "rotor router" (比率 P_{uv} で頂点 u 頂点 v に"順次"移動)
- ✓ 時刻 t の配置 χ^t ($\chi^t \approx \mu^t$???)



deterministic RW (Propp機械; rotor-router)

N 個のトークンがグラフ上を移動する.

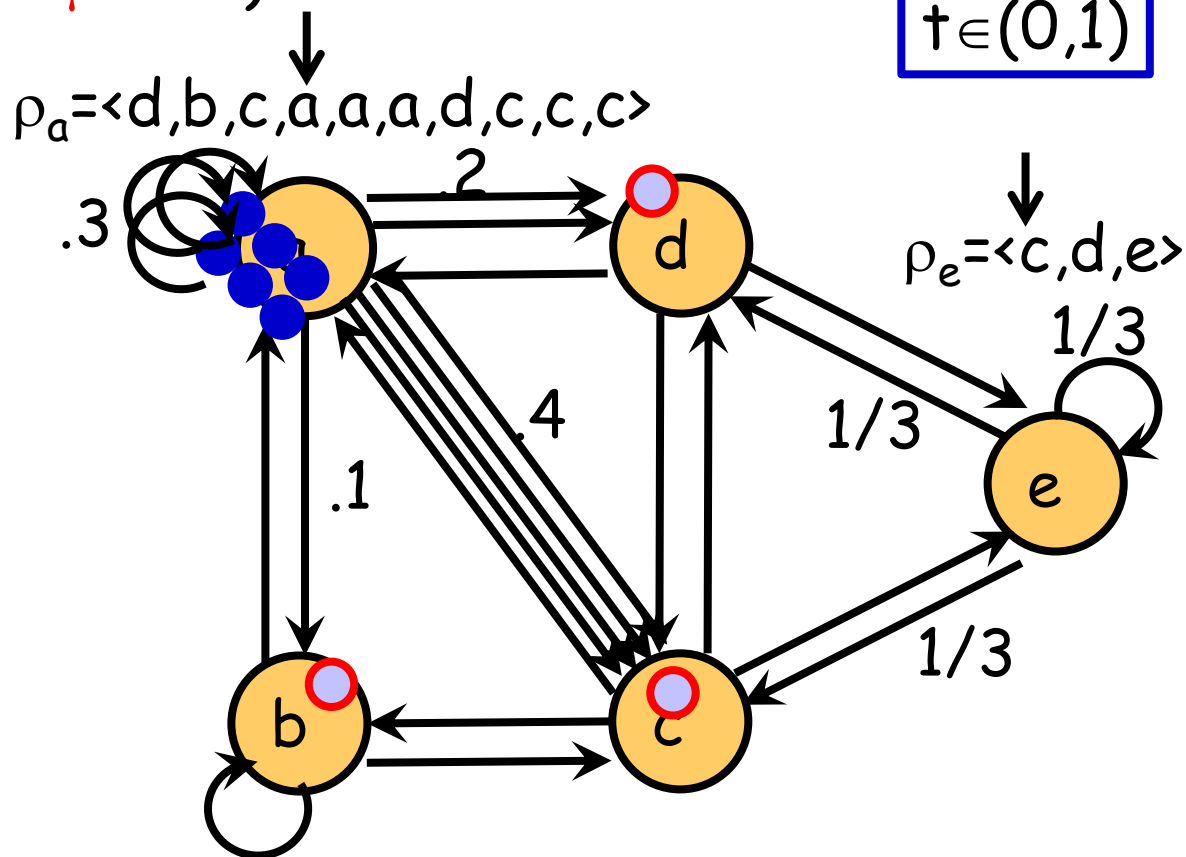
- ✓ χ^0 : 初期配置 ($\chi^0 = \mu^0$)
- ✓ ρ : "rotor router" (比率 P_{uv} で頂点 u 頂点 v に"順次"移動)
- ✓ 時刻 t の配置 χ^t ($\chi^t \approx \mu^t$???)



deterministic RW (Propp機械; rotor-router)

N 個のトークンがグラフ上を移動する.

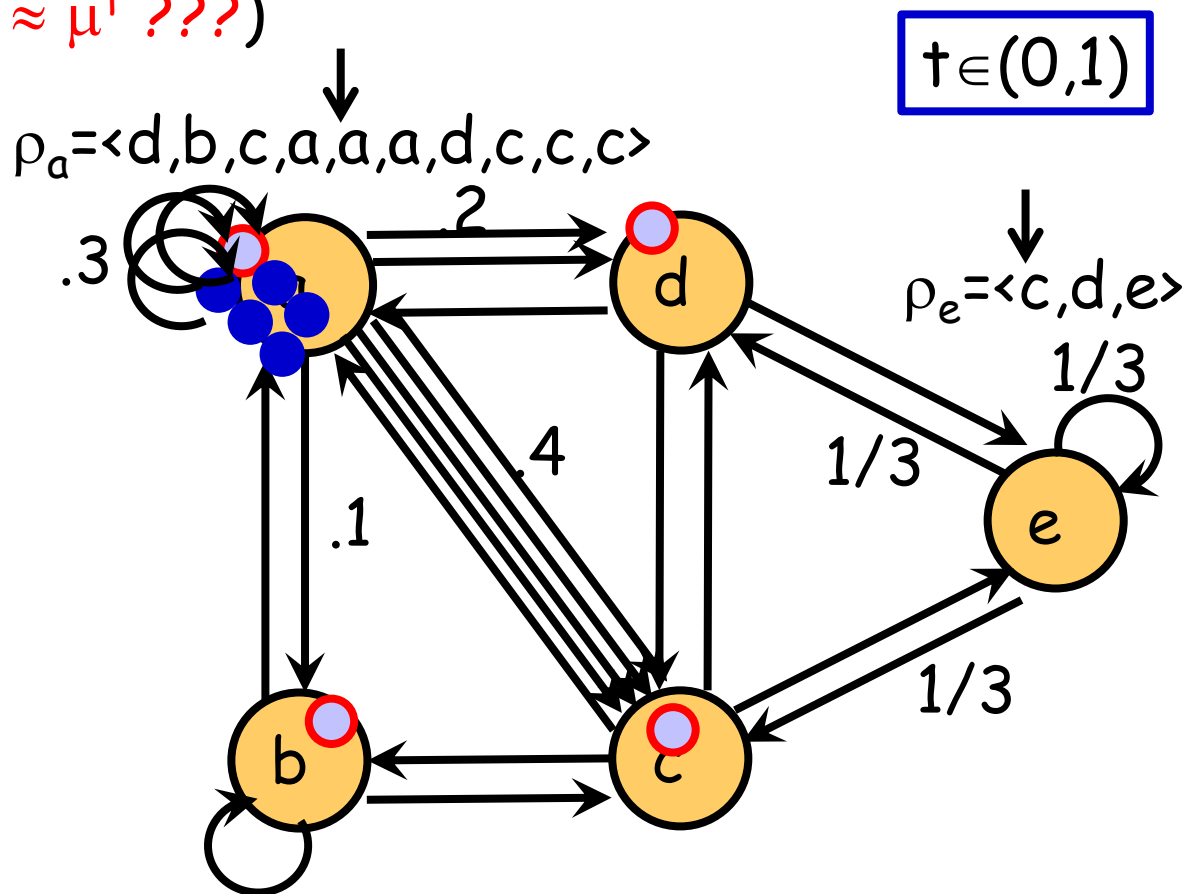
- ✓ χ^0 : 初期配置 ($\chi^0 = \mu^0$)
- ✓ ρ : "rotor router" (比率 P_{uv} で頂点 u 頂点 v に"順次"移動)
- ✓ 時刻 t の配置 χ^t ($\chi^t \approx \mu^t$???)



deterministic RW (Propp機械; rotor-router)

N個のトークンがグラフ上を移動する.

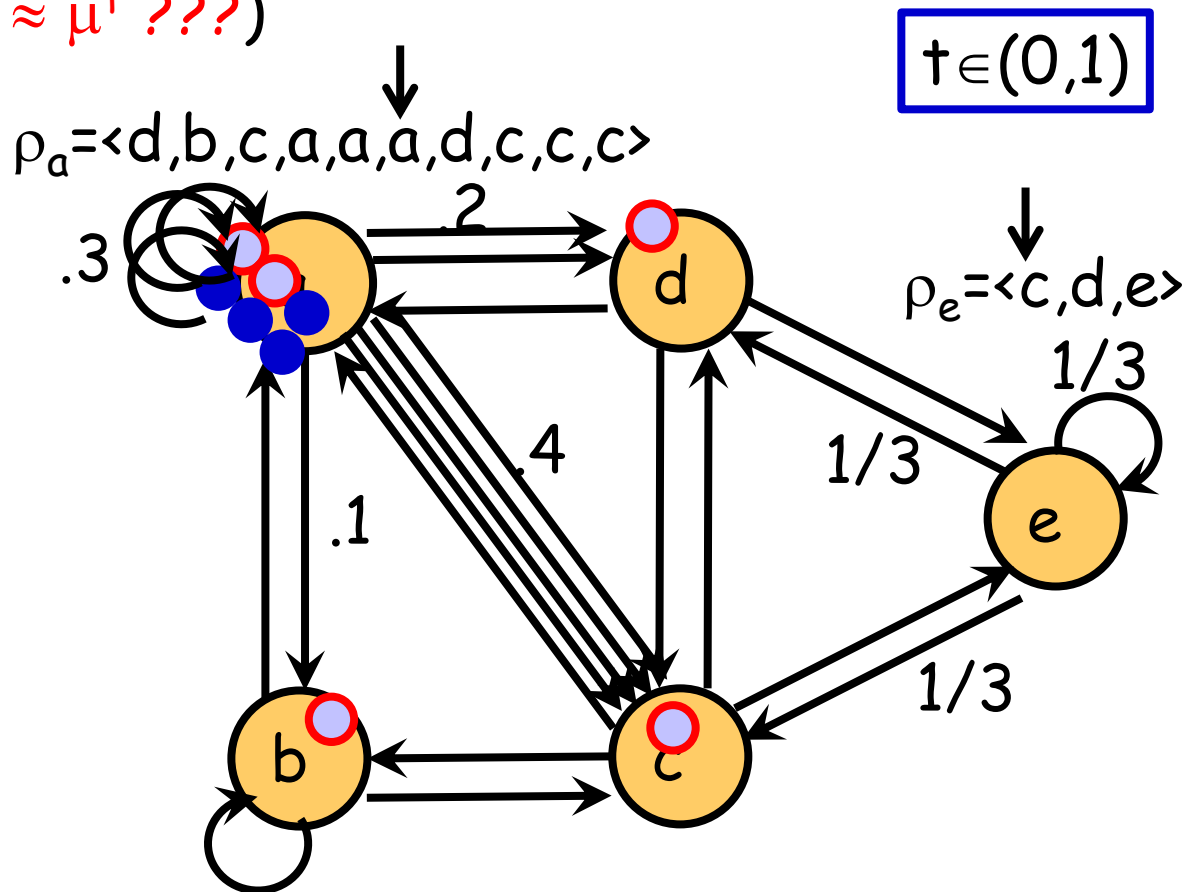
- ✓ χ^0 : 初期配置 ($\chi^0 = \mu^0$)
- ✓ ρ : "rotor router" (比率 P_{uv} で頂点 u 頂点 v に"順次"移動)
- ✓ 時刻 t の配置 χ^t ($\chi^t \approx \mu^t$???)



deterministic RW (Propp機械; rotor-router)

N 個のトークンがグラフ上を移動する.

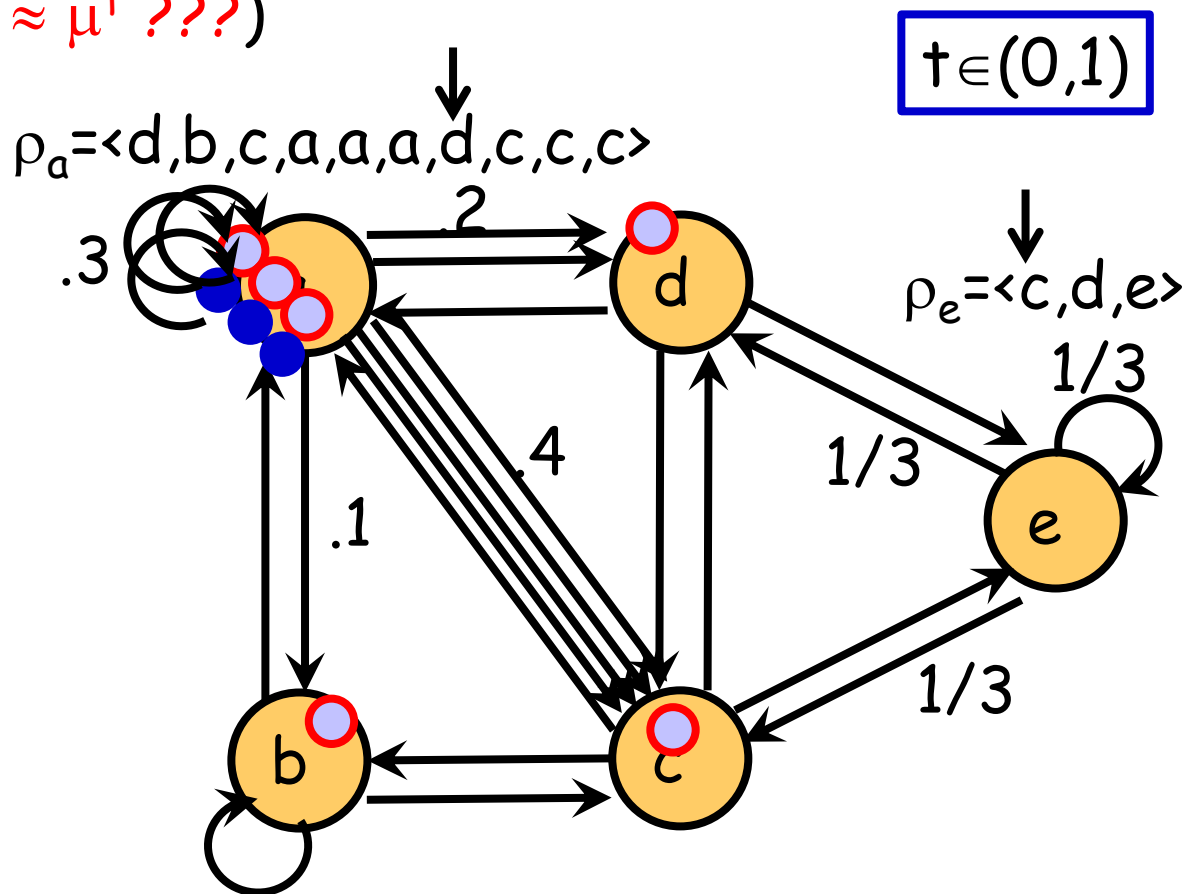
- ✓ χ^0 : 初期配置 ($\chi^0 = \mu^0$)
- ✓ ρ : "rotor router" (比率 P_{uv} で頂点 u 頂点 v に"順次"移動)
- ✓ 時刻 t の配置 χ^t ($\chi^t \approx \mu^t$???)



deterministic RW (Propp機械; rotor-router)

N 個のトークンがグラフ上を移動する.

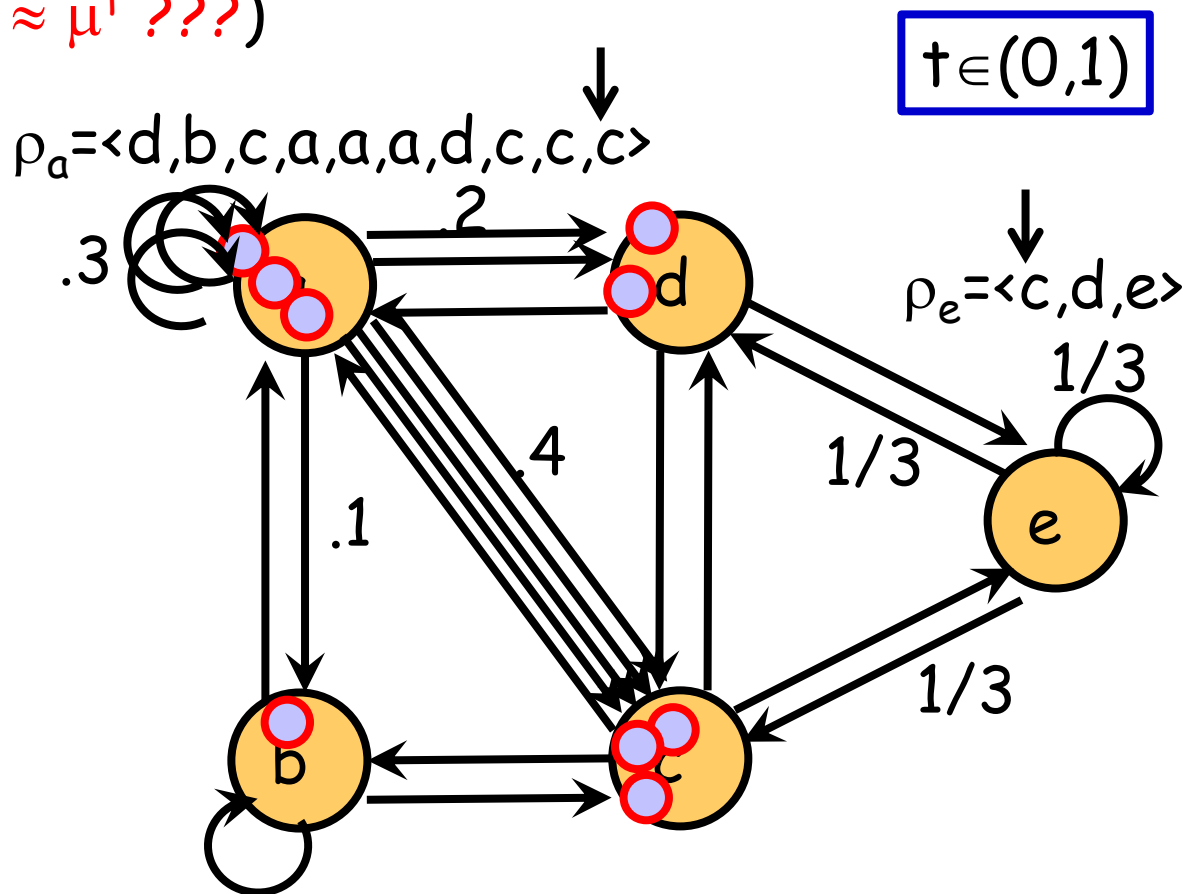
- ✓ χ^0 : 初期配置 ($\chi^0 = \mu^0$)
- ✓ ρ : "rotor router" (比率 P_{uv} で頂点 u 頂点 v に"順次"移動)
- ✓ 時刻 t の配置 χ^t ($\chi^t \approx \mu^t$???)



deterministic RW (Propp機械; rotor-router)

N 個のトークンがグラフ上を移動する.

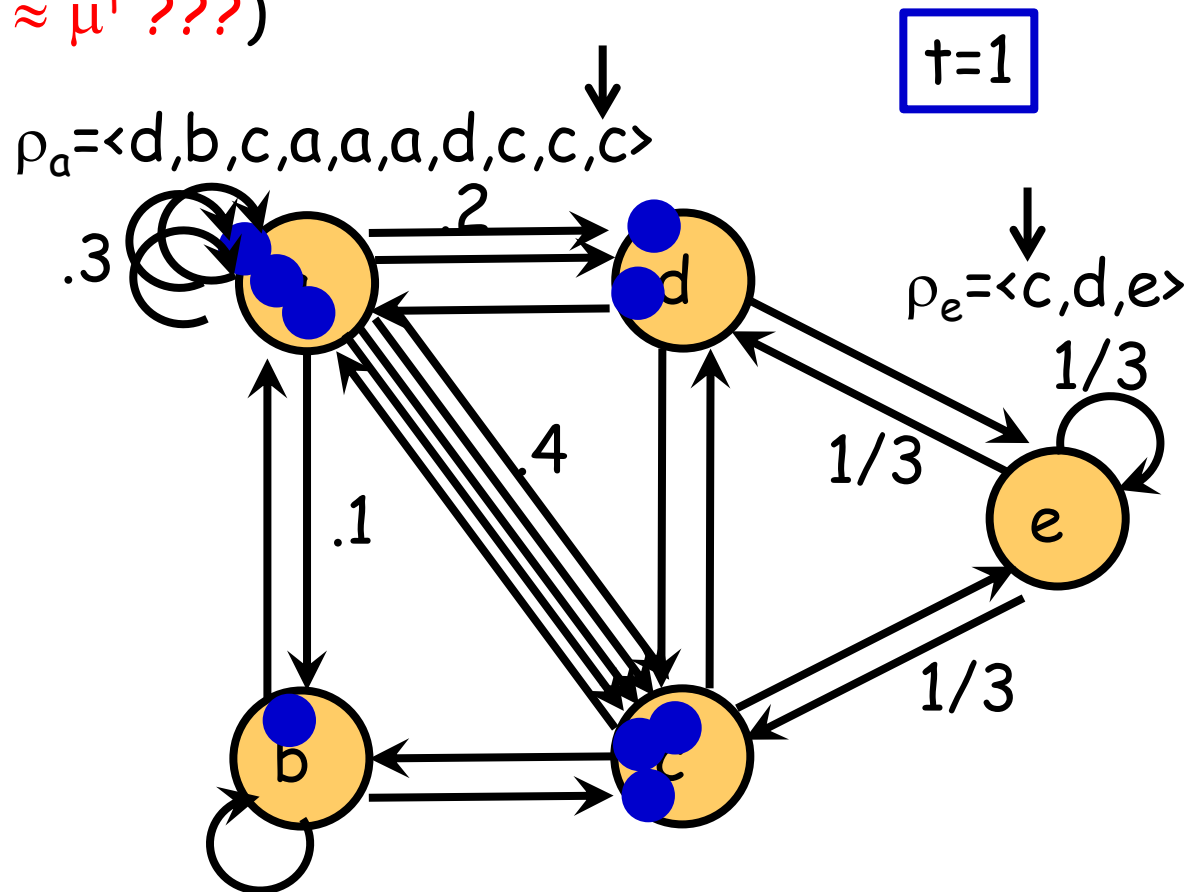
- ✓ χ^0 : 初期配置 ($\chi^0 = \mu^0$)
- ✓ ρ : "rotor router" (比率 P_{uv} で頂点 u 頂点 v に"順次"移動)
- ✓ 時刻 t の配置 χ^t ($\chi^t \approx \mu^t$???)



deterministic RW (Propp機械; rotor-router)

N 個のトークンがグラフ上を移動する.

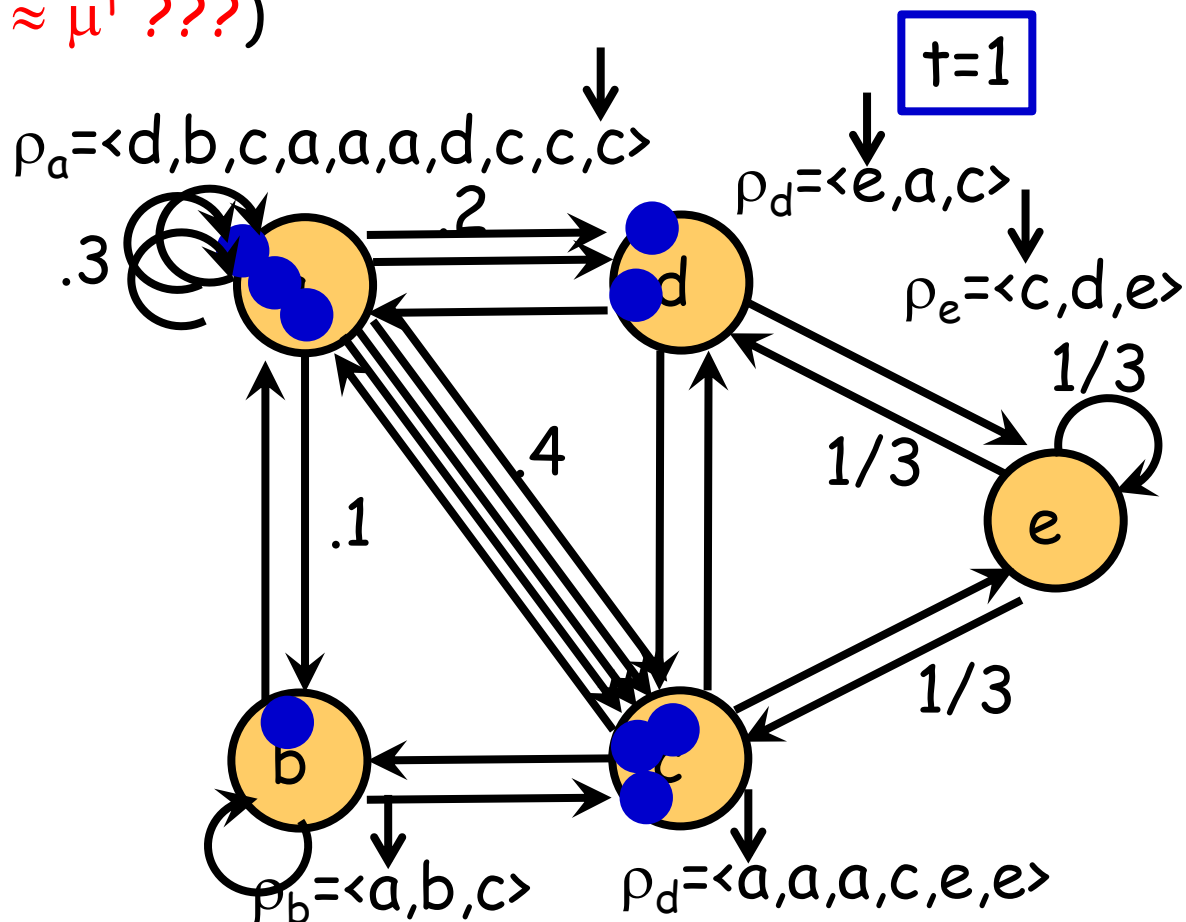
- ✓ χ^0 : 初期配置 ($\chi^0 = \mu^0$)
- ✓ ρ : "rotor router" (比率 P_{uv} で頂点 u 頂点 v に"順次"移動)
- ✓ 時刻 t の配置 χ^t ($\chi^t \approx \mu^t$???)



deterministic RW (Propp機械; rotor-router)

N 個のトークンがグラフ上を移動する.

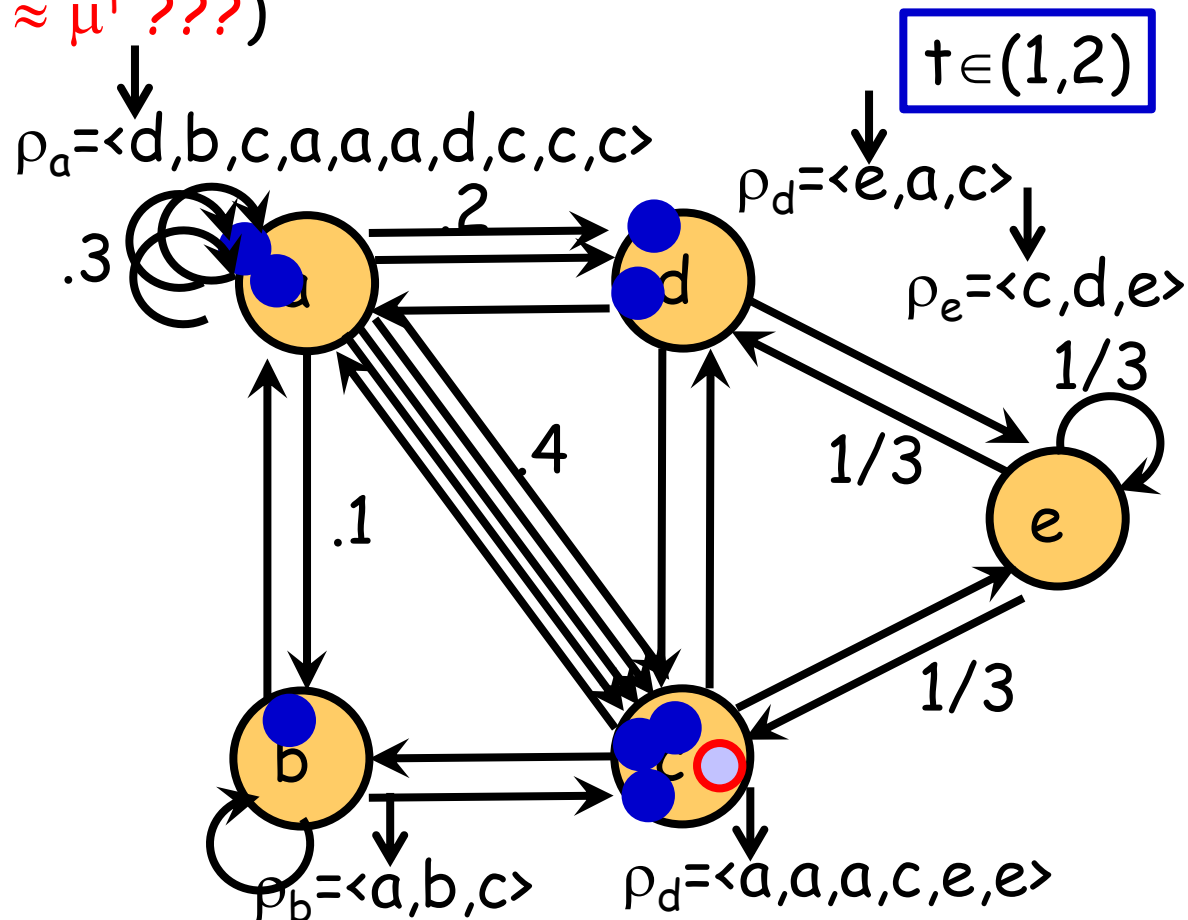
- ✓ χ^0 : 初期配置 ($\chi^0 = \mu^0$)
- ✓ ρ : "rotor router" (比率 P_{uv} で頂点 u 頂点 v に"順次"移動)
- ✓ 時刻 t の配置 χ^t ($\chi^t \approx \mu^t$???)



deterministic RW (Propp機械; rotor-router)

N 個のトークンがグラフ上を移動する.

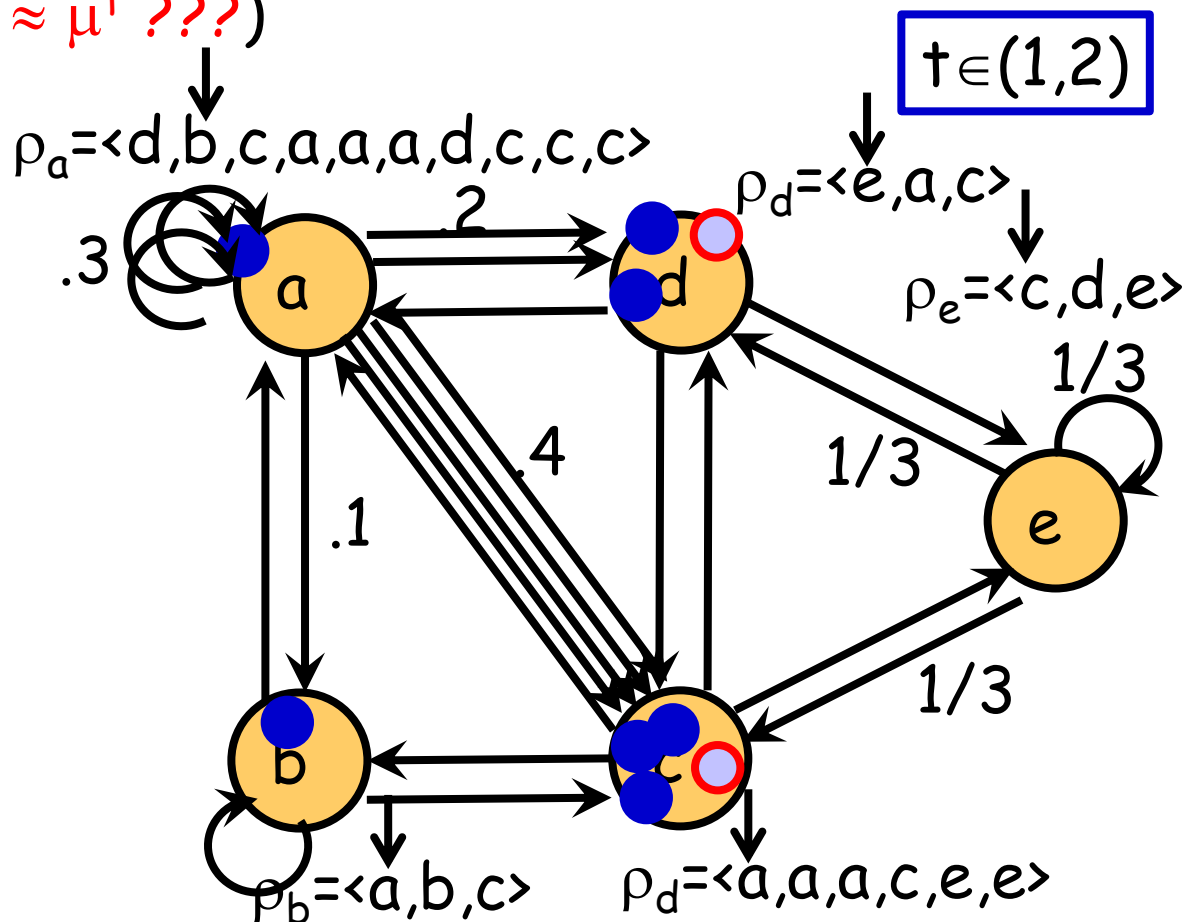
- ✓ χ^0 : 初期配置 ($\chi^0 = \mu^0$)
- ✓ ρ : "rotor router" (比率 P_{uv} で頂点 u 頂点 v に"順次"移動)
- ✓ 時刻 t の配置 χ^t ($\chi^t \approx \mu^t$???)



deterministic RW (Propp機械; rotor-router)

N 個のトークンがグラフ上を移動する.

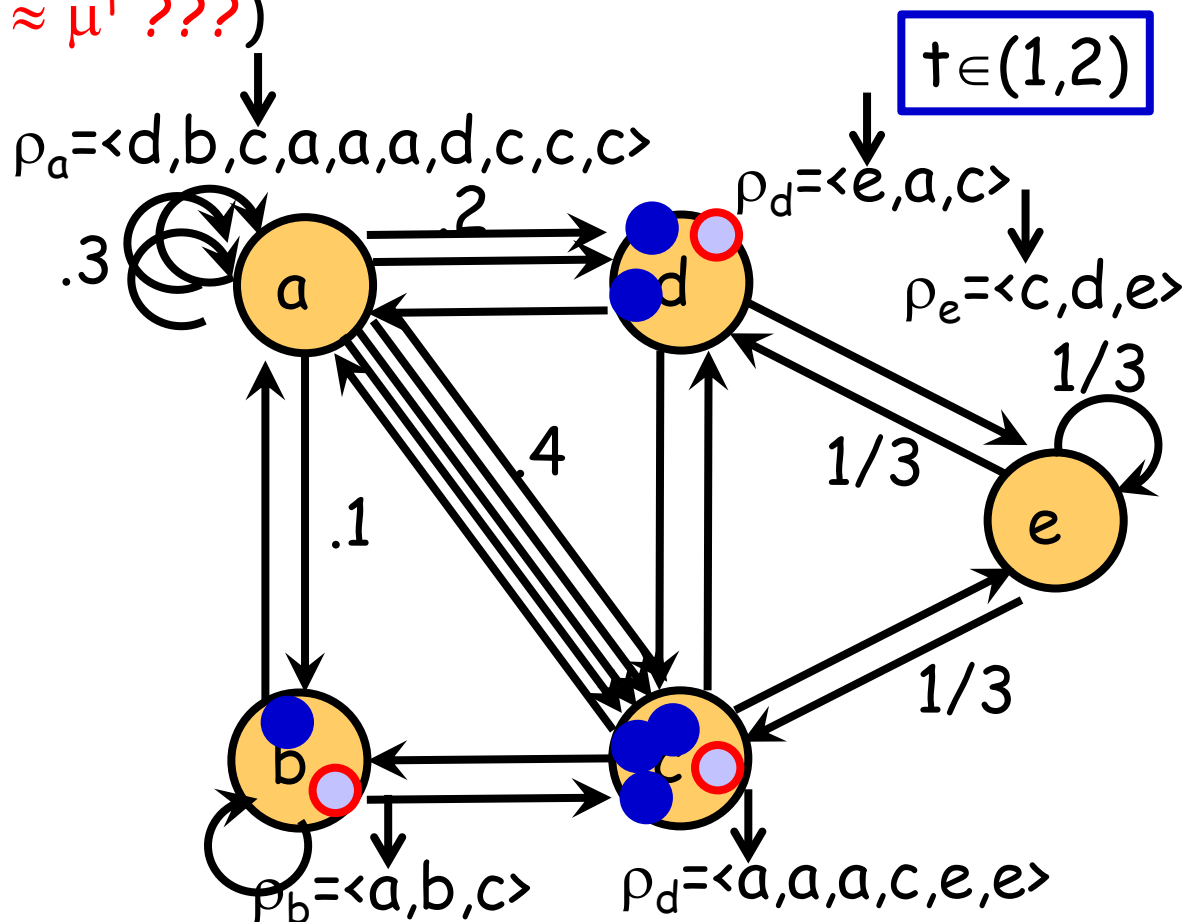
- ✓ χ^0 : 初期配置 ($\chi^0 = \mu^0$)
- ✓ ρ : "rotor router" (比率 P_{uv} で頂点 u 頂点 v に"順次"移動)
- ✓ 時刻 t の配置 χ^t ($\chi^t \approx \mu^t$???)



deterministic RW (Propp機械; rotor-router)

N 個のトークンがグラフ上を移動する.

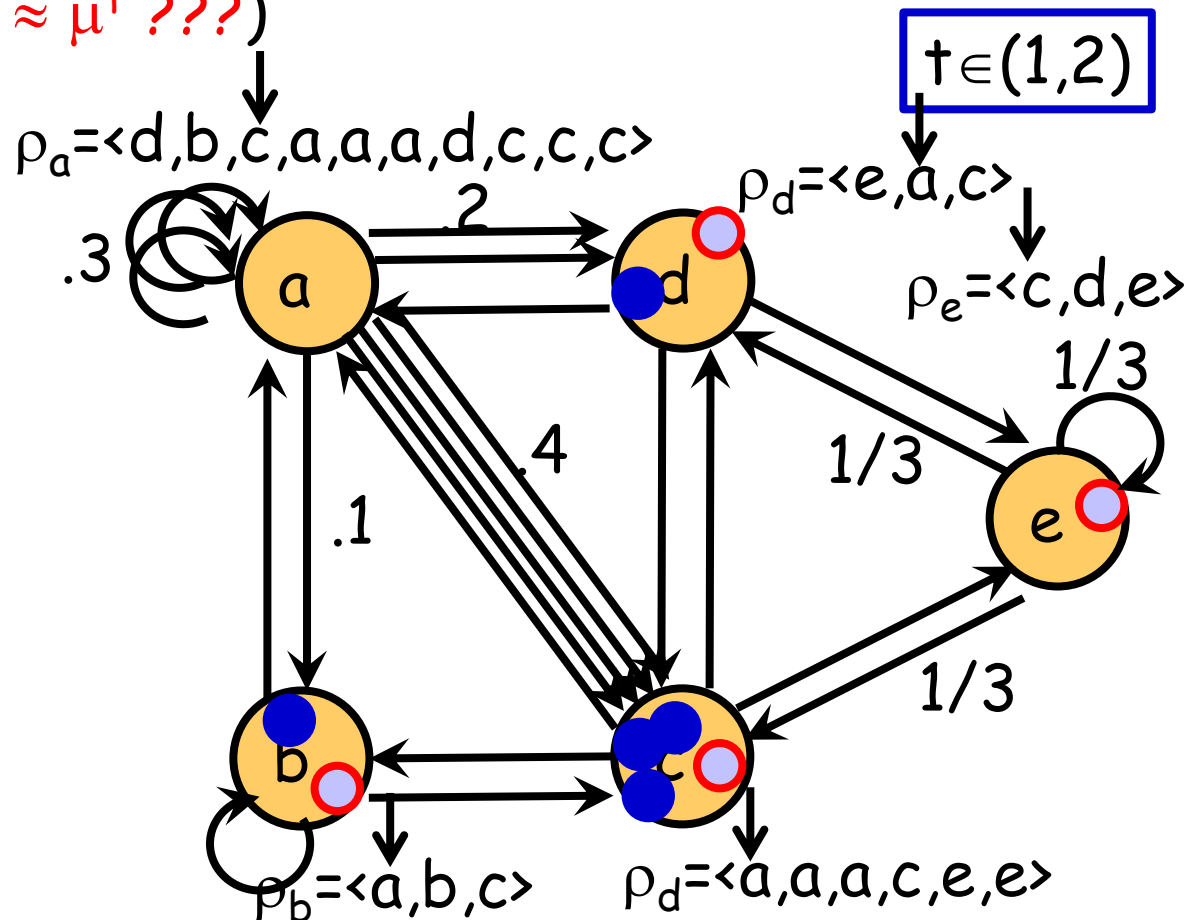
- ✓ χ^0 : 初期配置 ($\chi^0 = \mu^0$)
- ✓ ρ : "rotor router" (比率 P_{uv} で頂点 u 頂点 v に"順次"移動)
- ✓ 時刻 t の配置 χ^t ($\chi^t \approx \mu^t$???)



deterministic RW (Propp機械; rotor-router)

N個のトークンがグラフ上を移動する.

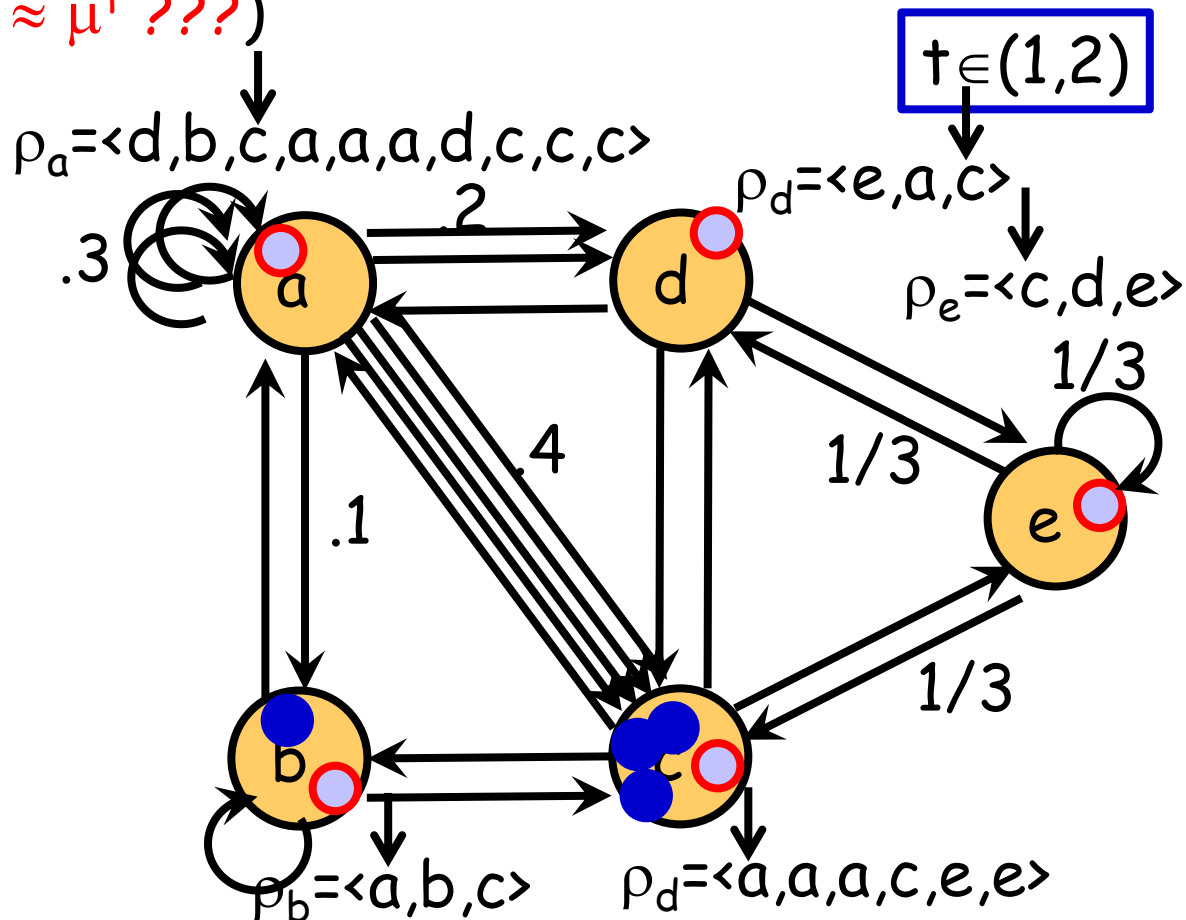
- ✓ χ^0 : 初期配置 ($\chi^0 = \mu^0$)
- ✓ ρ : "rotor router" (比率 P_{uv} で頂点 u 頂点 v に"順次"移動)
- ✓ 時刻 t の配置 χ^t ($\chi^t \approx \mu^t$???)



deterministic RW (Propp機械; rotor-router)

N 個のトークンがグラフ上を移動する.

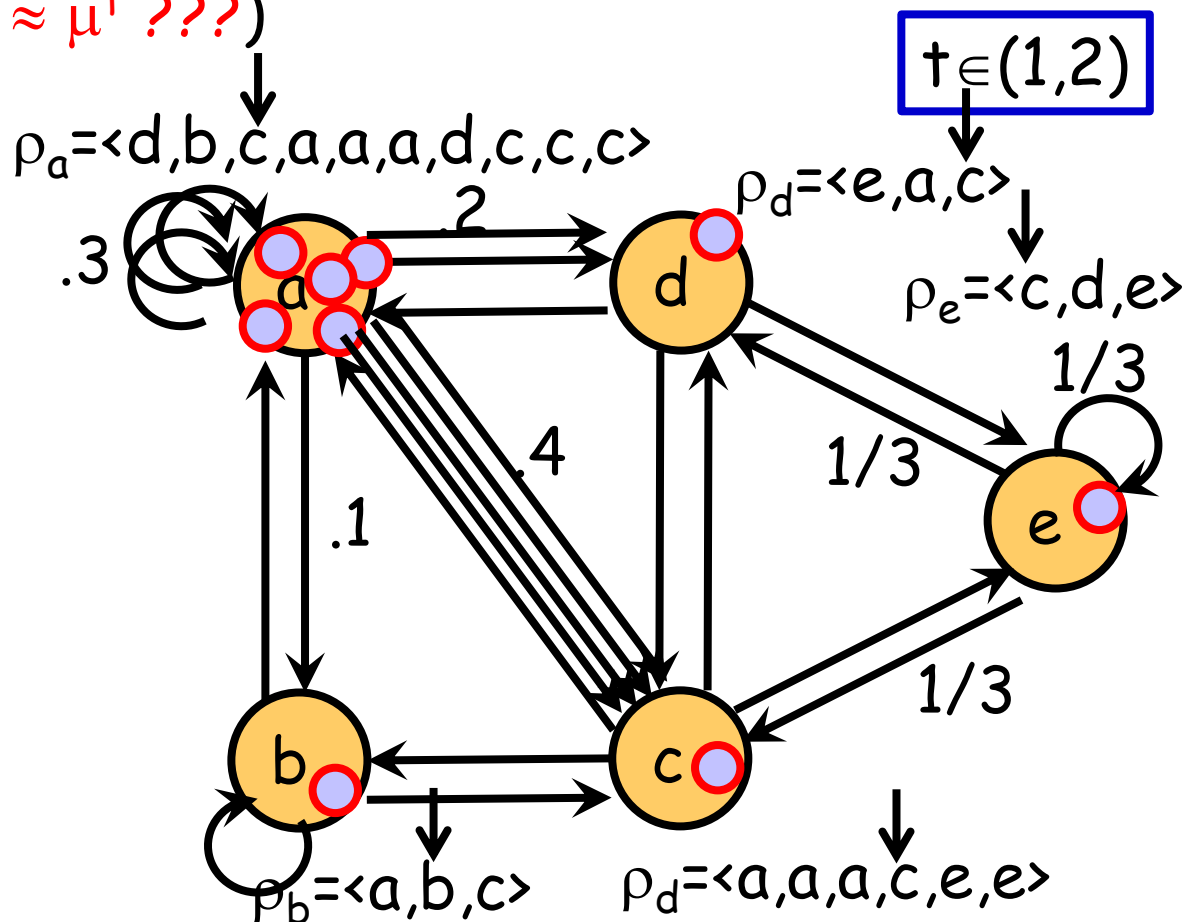
- ✓ χ^0 : 初期配置 ($\chi^0 = \mu^0$)
- ✓ ρ : "rotor router" (比率 P_{uv} で頂点 u 頂点 v に"順次"移動)
- ✓ 時刻 t の配置 χ^t ($\chi^t \approx \mu^t$???)



deterministic RW (Propp機械; rotor-router)

N 個のトークンがグラフ上を移動する.

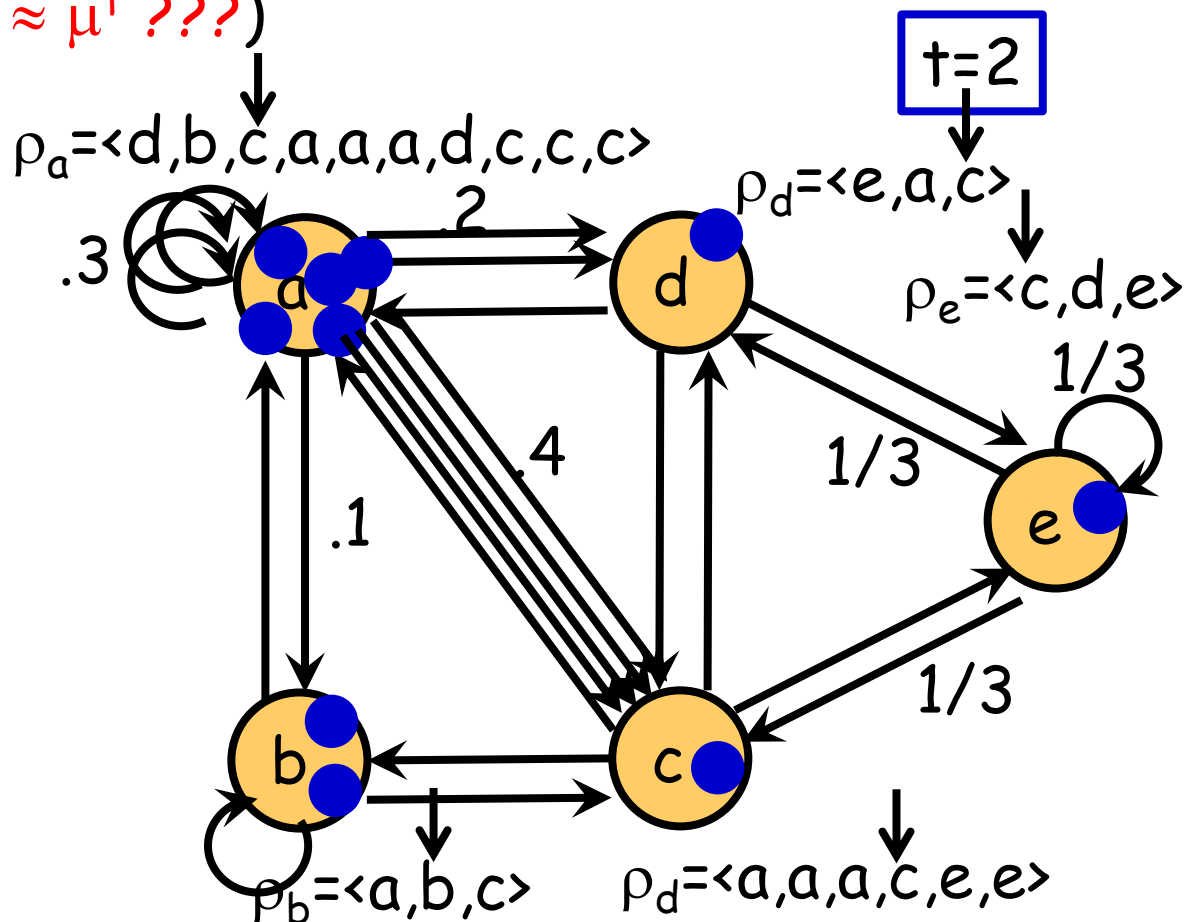
- ✓ χ^0 : 初期配置 ($\chi^0 = \mu^0$)
- ✓ ρ : "rotor router" (比率 P_{uv} で頂点 u 頂点 v に"順次"移動)
- ✓ 時刻 t の配置 χ^t ($\chi^t \approx \mu^t$???)



deterministic RW (Propp機械; rotor-router)

N個のトークンがグラフ上を移動する.

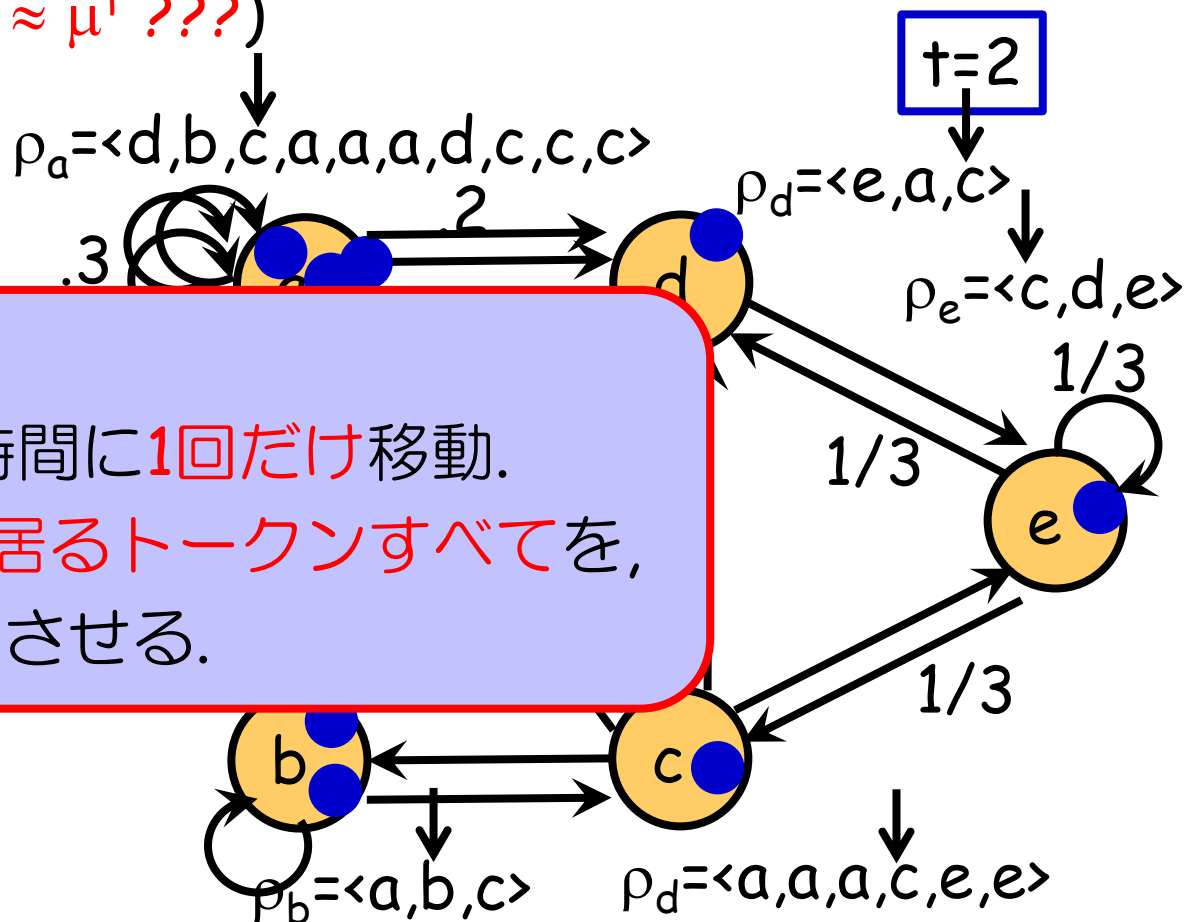
- ✓ χ^0 : 初期配置 ($\chi^0 = \mu^0$)
- ✓ ρ : "rotor router" (比率 P_{uv} で頂点 u 頂点 v に"順次"移動)
- ✓ 時刻 t の配置 χ^t ($\chi^t \approx \mu^t$???)



deterministic RW (Propp機械; rotor-router)

N個のトークンがグラフ上を移動する.

- ✓ χ^0 : 初期配置 ($\chi^0 = \mu^0$)
- ✓ ρ : "rotor router" (比率 P_{uv} で頂点 u 頂点 v に"順次"移動)
- ✓ 時刻 t の配置 χ^t ($\chi^t \approx \mu^t$???)



Remark

- ✓ 各トークンは単位時間に**1回だけ**移動.
- ✓ 各ノードは**時刻 t に居るトークンすべて**を,
時刻 $t+1$ までに移動させる.

Propp機械はランダムウォークを模倣できるか?

N個のトークンがグラフ上を移動する.

✓ χ^0 : 初期配置 ($\chi^0 = \mu^0$)

✓ (エルゴード)マルコフ連鎖は定常分布に収束する

➢ “平滑化”される.

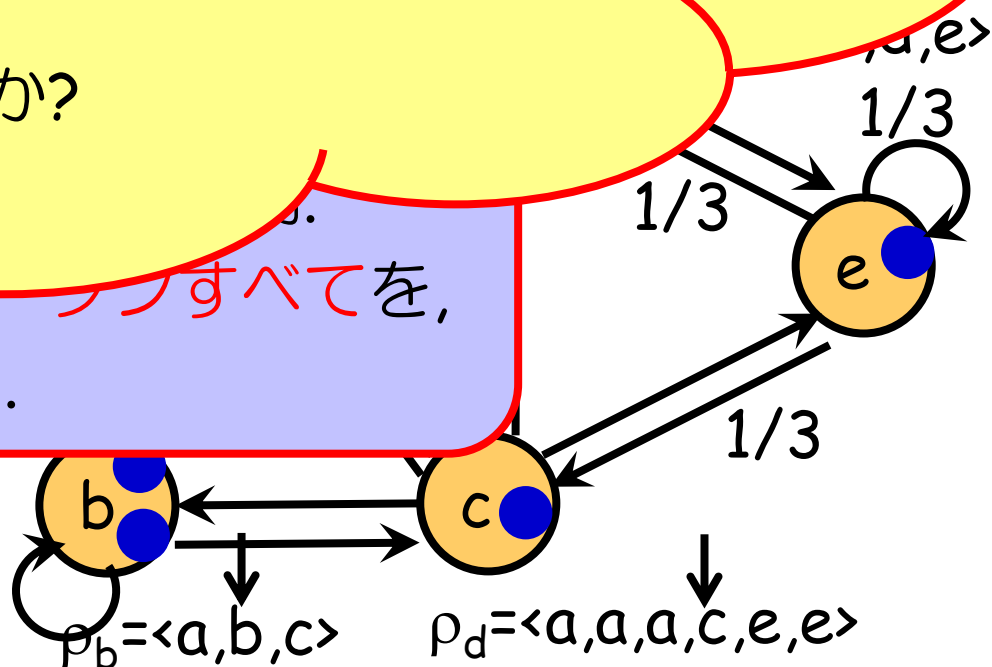
✓ Propp機械はランダムウォークを模倣できるか?

➢ “平滑化”できるか?

➢ “だま”はできないのか?

✓ 各ノードは

✓ 各ノードは時刻 t に居るトークンすべてを,
時刻 $t+1$ までに移動させる.



誤差の上界

定理 [K, Koga, Makino 10+]

対応する推移確率行列 P の固有値がすべて非負ならば,
 任意の多重有向グラフ, 任意の初期状態, 任意のrotor-router,
 任意の頂点 w , 任意の時刻 t について,

$$|\chi_w^{(T)} - \mu_w^{(T)}| \leq 4mn + O(m)$$

但し, n, m は多重グラフの頂点数, 枝数.

Remark

「推移確率行列 P の固有値がすべて非負」という条件.

➤ reversible lazy Markov chainはこの条件を満たす.

✓ MCMC法で使われるマルコフ連鎖

➤ $+P$ が対称 $\Rightarrow P$ は半正定値行列

誤差の下界

定理 [K, Koga, Makino 10+]

ある多重有向グラフ $G=(V, \mathcal{E})$,

ある初期状態, あるrotor-routerが存在して,

$$|\chi_w^{(T)} - \mu_w^{(T)}| \geq \Omega(m)$$

但し, m は多重グラフの頂点数,枝数.

チップ数に依存しない。

先行研究と本研究の成果

定理 [Cooper & Spencer 2006]

$\mathbb{Z}^d$ 上で, 任意の初期状態, 任意のrotor-router,
任意の頂点 w , 任意の時刻 t について,
(d のみに依存する)定数 C_d が存在して,

$$|\chi_w^{(T)} - \mu_w^{(T)}| \leq C_d$$

単一頂点誤差に関する研究(1/2)

2006	Cooper, Spencer	$\mathbb{Z}^d$ 上のロータールーター ➤ 誤差 $\leq C_d$
2007	Cooper, Doerr, Spencer, Tardos	$\mathbb{Z}^1$ 上のロータールーター ➤ $C_1 \leq 2.29$
2008	Cooper, Doerr, Friedrich, Spencer	無限のk正則木上のロータールーター ➤ 誤差 $> \Omega(\sqrt{kT})$ at time T
2009	Doerr, Friedrich	$\mathbb{Z}^2$ 上のロータールーター ➤ $C_2 \leq 7.83$ (上右下左) ➤ $C_2 \leq 7.29$ (上下左右)
2012	Kijima, Koga, Makino	有限多重有向グラフ G 上のロータールーター ➤ 誤差 $\leq 4mn + O(m)$ $\{0,1\}^d$ 上のPropp機械 ➤ 誤差 $\leq O(d^3)$ (頂点数のpoly log)
2012+	Kajino et al.	(後述)

単一頂点誤差に関する研究(2/2)

2012 (2010)	Kijima, Koga, Makino	有限多重有向グラフ G 上のロータールーター ➤ 誤差 $\leq 4m^*n + O(m^*)$ (P: 有理数 + 既約 + 非周期 + 可逆 + lazy) $\{0,1\}^d$ 上のPropp機械 ➤ 誤差 $\leq O(d^3)$ (頂点数のpoly log)
2012+ (2011)	Kajino, Kijima, Makino	有限多重有向グラフ G 上のロータールーター ➤ 誤差 $\leq O\left(\alpha \frac{m^*n^2}{1-\lambda}\right)$ (P: 有理数 + 既約) $\{0,1\}^d$ 上のPropp機械 ➤ 誤差 $\leq O(d^2)$ (頂点数のpoly log)

単一頂点誤差に関する研究(2/2)

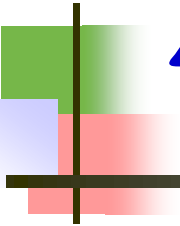
2012 (2010)	Kijima, Koga, Makino	有限多重有向グラフ G 上のロータールーター ➤ 誤差 $\leq 4m^*n + O(m^*)$ (P: 有理数 + 既約 + 非周期 + 可逆 + lazy) $\{0,1\}^d$ 上のPropp機械 ➤ 誤差 $\leq O(d^3)$ (頂点数のpoly log)
2012+ (2011)	Kajino, Kijima, Makino	有限多重有向グラフ G 上のロータールーター ➤ 誤差 $\leq O\left(\alpha \frac{m^*n^2}{1-\lambda}\right)$ (P: 有理数 + 既約) $\{0,1\}^d$ 上のPropp機械 ➤ 誤差 $\leq O(d^2)$ (頂点数のpoly log)
2013+ (2012)	Shiraga, Yamauchi, Kijima, Yamashita	有限有向グラフ G 上の関数ルーター ➤ 誤差 $\leq O\left(\frac{\pi_{\max}}{\pi_{\min}} t^* \Delta\right)$ t^* : mixing rate, Δ : 遷移グラフの最大次数 (P: 実数 + 既約 + 非周期 + 可逆)

Brand-new

"deterministic sampling"

今後の課題

- ✓ 上下界の一致. ($O(mn)$, $\Omega(m)$)
- ✓ 組合せ構造に由来するグラフに対する **polylog** の上界.
- ✓ **Blanket time** vs **Mixing time**.
- ✓ MCMC法の**脱乱択化**.
- ✓ 乱数とは？
 - 乱択アルゴリズムにおける「乱数」の持つべき性質は？
 - ◆ 準モンテカルロ (quasi Monte Carlo)
 - ◆ カオス系列 (Chaos time series)



4. まとめ

1. 乱択の威力: ストリーム中の頻出アイテム検知
 - ✓ $O(\log \log N)$ 領域計算法
2. 高度な乱択技法: 組合せ的対象のランダム生成 (MCMC法)
3. 脱乱択化: ランダムウォークの脱乱択化

今後の課題

「乱択アルゴリズムにおいて、乱数に真を求める性質は何か？」

今後の課題

「乱択アルゴリズムにおいて、乱数に真を求める性質は何か？」

講演者の現在

確率的アルゴリズムについて、いろいろ研究

- 自動掃除ロボットは部屋の隅を上手に掃除できるか？

[with 平原昂樹, 山下雅史]

- 順列集合上のオンライン線形最適化

[with 安武 翔太, 畑埜 晃平, 瀧本 英二, 竹田 正幸]



iRobot社 Roomba

次の講演の導入



置換多面体上の乱択丸め

来嶋秀治 (九州大学)

[共同研究 I]

安武翔太, 畑埜晃平, 瀧本英二, 竹田正幸,
(ISAAC 2011),

[共同研究 II]

末廣大貴, 畑埜晃平, 瀧本英二, 永野清仁,
(ALT 2012),

2010年5月のある日

Q. “効率的なアルゴリズムを知りませんか?”

入力: 順列の“平均” $\ast$ p ,

出力: ランダム順列 $X \in S_n$ s.t. $E[X] = p$.

$\ast$ 順列の“平均” $p := (p_1 + p_2 + \dots + p_M) / M$

for $p_1 = (3, 1, 4, 2)$, $p_2 = (2, 1, 4, 3)$, ..., $p_M = (3, 2, 4, 1)$

それは “置換多面体上の乱択丸め” ですね。
カラテオドリの定理を使えば、
(たぶん) 多項式時間でできます...



K. Hatano



K.

2010年12月のある日

✓ $O(n^3)$ 時間, and
✓ $O(n)$ 領域

Q. “効率的なアルゴリズムを知りませんか?”

入力: 順列の“平均” $\ast$ p ,

出力: ランダム順列 $X \in S_n$ s.t. $E[X] = p$.

$\ast$ 順列の“平均” $p := (p_1 + p_2 + \dots + p_M) / M$

for $p_1 = (3, 1, 4, 2)$, $p_2 = (2, 1, 4, 3)$, ..., $p_M = (3, 2, 4, 1)$

それは“置換”ですね。
カラダ
(たぶん,
 $O(n)$ 領域!?
 $O(n^3)$ 時間???



M. Takeda



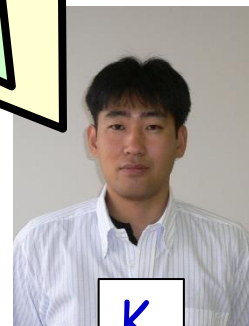
E. Takimoto



S. Yasutake



K. Hatano



K.

オンライン学習グループ

2011年1月1日

✓ $O(n^3)$ 時間, and

✓ $O(n)$ 領域

Q. “効率的なアルゴリズムを知りませんか?”

入力: 順列の“平均” $\ast$ p ,

出力: ランダム順列 $X \in S_n$ s.t. $E[X] = p$.

$\ast$ 順列の“平均” $p := (p_1 + p_2 + \dots + p_M) / M$

for $p_1 = (3, 1, 4, 2)$, $p_2 = (2, 1, 4, 3)$, ..., $p_M = (3, 2, 4, 1)$.

できた!

$O(n^2)$ 時間, $O(n)$ 領域!



M. Takeda



E. Takimoto

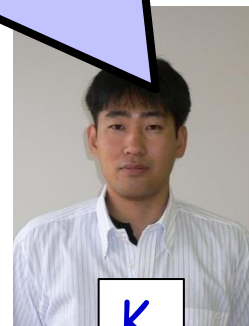


S. Yasutake

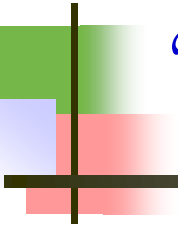


K. Hatano

オンライン学習グループ



K.



The end

Thank you for the attention.